



高等学校 保健学習の指導と評価の工夫

— 思考力の育成を目指した実践例 —

まえがき

我が国では近年、社会状況や生活様式等の急激な変化に伴い、子供たちのメンタルヘルス、アレルギー疾患、感染症、性の問題行動、薬物乱用、生活習慣の乱れなどの健康課題が顕在化し、深刻になっています。

学校においては、こうした多様な健康課題に適切に対応するとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を営んでいく資質・能力を育成する健康教育の充実が一層求められています。

そこで、学校での健康教育の中核となる、学習指導要領に位置付けられた保健学習（小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野および高等学校保健体育科科目保健）は、すべての子供が学ぶべきものとして確実にかつ効果的に推進される必要があります。

（公財）日本学校保健会の「保健学習推進委員会」（委員長：筑波大学教授 野津有司）では保健学習の一層の充実を図るために、平成24年度より「指導と評価」に焦点を当てた指導資料の作成に取り組んできました。本書に紹介された指導と評価は、授業実践を通して検証し、さらに必要な改善を加えるなどのプロセスに基づいており、各学校の実践において大いに活用されることを願っております。また、教員養成課程の学生の皆様の参考書としても、前シリーズの「新学習指導要領に基づくこれからの小学校保健学習」、「新学習指導要領に基づくこれからの中学校保健学習」および「思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習」と合わせて、役立てていただければ幸いです。

最後に、本書の作成に当たって、ご尽力いただきました保健学習推進委員会委員の先生方、授業研究等にご協力いただいた各学校、各教育委員会など関係の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成27年2月

公益財団法人 日本学校保健会
会 長 横倉 義武

目次

I 理論編

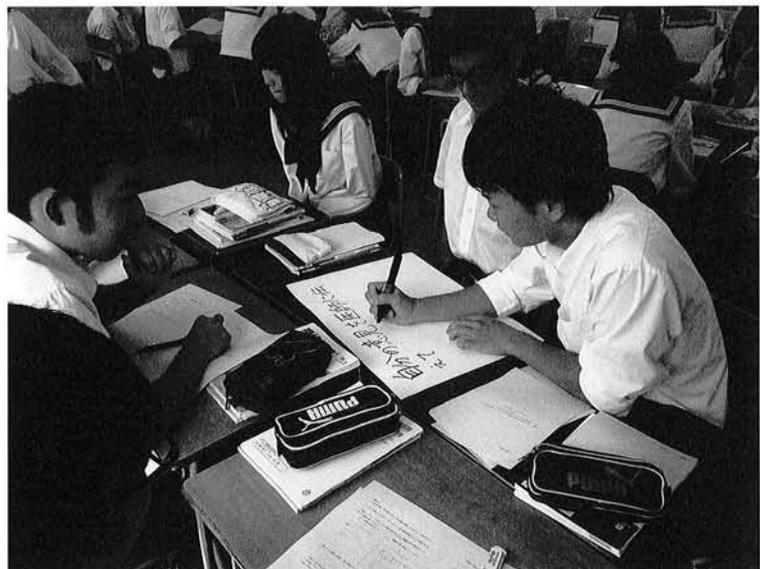
1. 高等学校における保健学習の指導と評価
 - (1) 目標に準拠した評価について 3
 - (2) 評価規準について 3

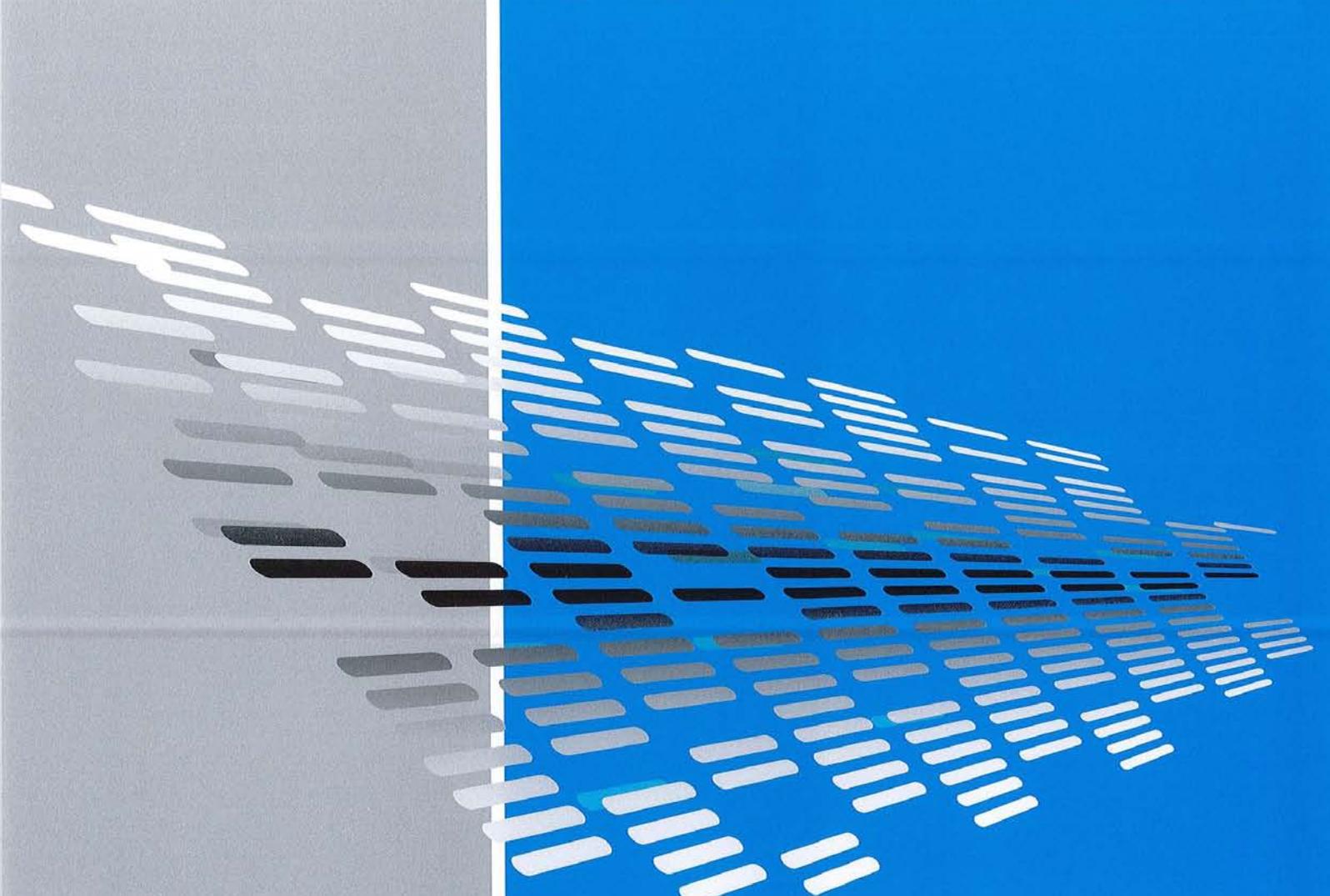
2. 授業づくりの留意点
 - (1) 思考・判断をとらせる 7
 - (2) 授業の展開をつくる 7
 - (3) 展開と評価と目標を対応させる 7

Q&A 9

II 実践編

1. 第1学年「喫煙と健康」 15
2. 第1学年「ストレスへの対処」 22
3. 第1学年「自己実現」 30
4. 第2学年「妊娠・出産と健康」 36
5. 第2学年「医療制度と医療費」 42
6. 第2学年「医療機関と医療サービス」 51





I 理論編

1. 高等学校における保健学習の指導と評価

(1) 目標に準拠した評価について

高等学校における保健学習（科目「保健」）の評価は、目標に準拠した評価で行うこととされている。（高等学校における生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）、文部科学省、平成22年5月11日）（一部抜粋，アンダーラインは筆者）

高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

したがって、各学校においては、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目（ここでは科目「保健」）の目標に基づき、学校が定めた科目「保健」の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価することとなる。目標に準拠した評価とは、学習指導要領に基づき学校が定めた目標や内容に照らし、実現状況を評価するものである。このことは、学習指導要領の目標や内容をおさえたもので、かつ、地域や生徒の実態に即して定めることが求められる。

例えば、学習指導要領の目標や内容が難しすぎる場合には、それにつながる簡便な概念や原則を目標や内容とすることが起こりうる。逆に、易しすぎる場合には、それを超える抽象的な概念や原則を目標や内容とすることが起こりうる。実際の授業では、補充的な学習や発展的な学習を取り入れることもあるだろう。

高等学校における指導と評価では、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容が一つの鍵になると言える。目標に準拠した評価を適切に行う第一歩として、学校においては、科目「保健」学習の目標や内容を十分に検討して定めることが重要である。

(2) 評価規準について

評価規準は、その実現状況を評価する際に用いる「もの差し」である。しかも、学習の質的な側面を評価の観点別にとらえることが求められる。また、客観性、妥当性などが求められる。目標に準拠した評価で用いられる「もの差し」としての評価規準は、教師と学習者の外側に位置している。この「もの差し」の位置は、集団とその割合に置かれる相対評価や子供の中に置かれる個人内評価、教師の中に置かれて教師の主観になりがちな評価などとは、明らかに異なるものである。

評価規準の設定については、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 保健体育）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」（国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成24年3月））を参考にするとよい。

1) 評価規準を作成する手順

表1は、その参考資料から「I 現代社会と健康」の「ア 健康の考え方」の一部を抜粋したものである。評価規準を作成するに当たっては、「(1) 評価規準を設定する際の枠組みを設定する」、「(2) それぞれの枠組みに入るものを絞り込む」、「(3) それぞれの枠組みに入れる」の三つの手順をあげることができる。それぞれについてみていくと次のようになる。

(1) 評価規準を設定する際の枠組みを設定する

表1の思考・判断でみると、評価規準の枠組みは、「内容」＋「活動」＋「実現状況」を設定することにより組み立てることができる。ここでいう「活動」とは、「資料等で調べる」「話し合う」などの学習活動を指している。表1の例文の文末に着目すると、①に「説明している」、②に「筋道を立ててそれらを説明している」の二つがある。

表1 「I 現代社会と健康」の「ア 健康の考え方」の評価規準例

思考・判断	知識・理解
<p>○健康の考え方</p> <p>①国民の健康水準と疾病構造の変化，健康の考え方と成り立ちについて，資料等で調べたことを基に，課題を見付けたり，整理したりするなどして，それらを説明している。</p> <p>②健康に関する意志決定や行動選択，健康に関する環境づくりについて，学習したことを，個人及び社会生活や事例などと比較したり，分類したり，分析したりするなどしている。また，筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>○健康の考え方</p> <p>①健康の考え方は，国民の健康水準や疾病構造の変化に伴って変わってきていること，健康は様々な要因の影響を受けながら，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること，健康の保持増進には，健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりが関わることについて，理解したことを発言したり，記述したりしている。</p>

①の「説明している」は，

- i) 【内容1 + 内容2 + ……「内容」】について，
- ii) 【資料等で調べたこと「活動」】を基に，
- iii) 【〇〇たり，〇〇たり ……「実現状況」】するなどして，それらを説明している。

となっている

②の「筋道を立ててそれらを説明している」は，

- i) 【内容1 + 内容2 + ……「内容」】について，
- ii) 【学習したこと「活動」】を，
- iii) 【〇〇たり，〇〇たり，……「実現状況」】するなどしている。また，【筋道を立て「実現状況」】てそれらを説明している。

となっている。

なお，同様に知識・理解でみると，評価規準の枠組みは，【活動】が省略されている。

(2) それぞれの枠組みに入るものを絞り込む

次に，「内容」「活動」「実現状況」のそれぞれに当てはまるものを絞り込んでいく手順を解説していく。

始めの「内容」については，表2に示すように「項目」で示す場合と，「主部+述部」で示すことである。特に，「項目」と「主部+述部」のどちらを用いるのか，何を記述するのかは，指導内容（学習内容）とは何かを明らかにする際に，特に重要である。

表2は，表1の評価規準例を指導内容（学習内容）の表記の仕方に着目して，項目名又は文節で分類し，「①-1」などの符号を振り直したものである。

表2 評価規準例を「項目」と「主部+述部」で分類

思考・判断	知識・理解
<p>○健康の考え方</p> <p>①-1 国民の健康水準と疾病構造の変化，①-2 健康の考え方と成り立ち（について）</p> <p>②-1 健康に関する意志決定や行動選択，②-2 健康に関する環境づくり（について）</p>	<p>○健康の考え方</p> <p>①-1 健康の考え方は，国民の健康水準や疾病構造の変化に伴って変わってきていること，</p> <p>①-2 健康は様々な要因の影響を受けながら，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること，</p> <p>②健康の保持増進には，健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりが関わること（について）</p>

思考・判断の①は、「①-1 国民の健康水準と疾病構造の変化」、「①-2 健康の考え方と成り立ち」というように「項目」で示している。これに対し、知識・理解については、「①-1 健康の考え方は、国民の健康水準や疾病構造の変化に伴って変わってきていること」、「①-2 健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること」というように、思考・判断の「項目」と対応させて「主部+述部」で示している。

思考・判断の②は、「②-1 健康に関する意志決定や行動選択」と「②-2 健康に関する環境づくり」が二つの「項目」で示している。これに対し、知識・理解は、「②健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりが関わること」というように「主部+述部」であり、かつ、思考・判断の項目の二つ分を合わせている。思考・判断で「項目」を二つにしているのは、「健康の保持増進には」という「主部」に対する「述部」を、「健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択」と「環境づくり」の二つに独立させているからである。

以上のことから、評価規準の枠組みの「内容」に入るものは、表2で取り出したように、「について」の前に記述された「項目」又は「主部+述部」であることがわかるであろう。ここでいう「内容」とは、学習指導要領及び解説に示された内容がこれに相当する。授業づくりをする際の指導内容（学習内容）は、教師が生徒に指導する（生徒が学習する）「対象」として評価規準の「内容」の部分に表記されるのである。

次に、「活動」については、表1では、思考・判断のみに、「資料等で調べたこと」と「学習したこと」が示されている。「活動」は、授業展開の方法に強く関係する。例示にある「資料等で調べたこと」のみを取り入れる指導にとどまってはならない。授業で取り上げる活動には、ディスカッション、ブレインストーミングなど、様々なものがあるからである。指導内容（学習内容）や教材、生徒の実態によって、適切な方法が選択されなければならない。

最後に、「実現状況」については、文末の「動詞」でとらえて示すことである。特に、「動詞」は、それぞれの評価の観点に対応したものをを用いることが重要である。例えば、思考・判断では、「見付ける」「整理する」「比較する」「分類する」「分析する」「筋道を立てる」などがある。なお、知識・理解では、「発言する」「記述する」などがある。

注意しなければならないことは、授業中の生徒の「調べる」「学習する」などの学習活動や授業方法を示す動詞もあるため、実現状況をとらえる動詞なのか、それとも学習活動や授業方法をとらえる動詞なのかの区別をすることである。その区別を明確にする検討を積み重ねることによって、思考・判断に用いる実現状況を表す動詞と関心・意欲・態度の実現状況を表す動詞を区別して、一つの観点到限定して用いることができるようになるであろう。

なお、表1に示す評価規準例は、評価の観点をとらえる「動詞」のさらに末尾に「それらを説明している」が付されている。これは、評価の観点が「思考・判断・表現」となったことを受けたものである。「それらを説明している」ことをとらえる際に重要なことは、「説明する」は「声の大きさ」や「聞き取りやすさ」、「説明する際の色づかい」といった表現であり、「見付ける」「整理する」といった思考・判断とは区別しておくことである。思考・判断の評価は、「思考・判断したこと」を「説明する」ことについて行うものであることを十分に踏まえることである。思考・判断の動詞でとらえた評価を確実に行うことが肝要である。

(3) それぞれの枠組みに入れる

「内容」「活動」「実現状況」で明らかにしたものを、それぞれの枠組みに入れて規準作成をしていく。

ここで重要なことは、パターン化したものを入れて組み合わせた後に、

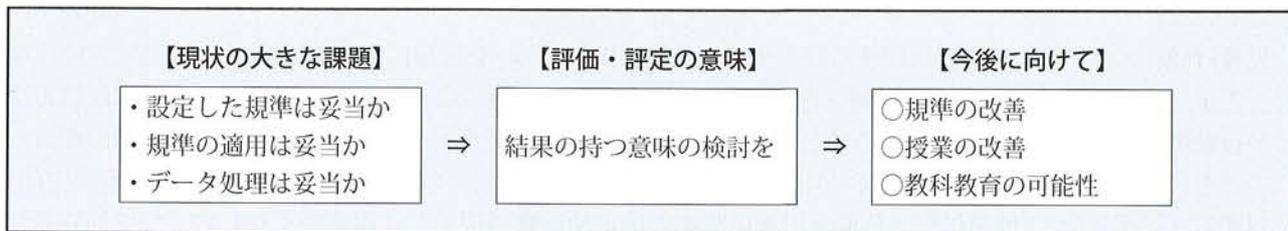
- i) 目標や内容に照らしてどうか
- ii) 生徒の実態等と食い違いがないか
- iii) 準備した活動や方法と整合しているか

などの吟味をすることである。

これらの吟味に当たっては、規準を作成し、実践して、生徒の反応や実現状況の結果の情報を入手し、それをもとに学習指導の在り方を見直し、次の改善した規準を検討し、次の計画を立てて、再度指導することの積み重ねによって検討を繰り返すことが重要となる。

2) 指導と評価の課題について

指導と評価は、正解のない取組かもしれない。よりよいものを目指して、授業改善に向けて取り組みたいものである。現状の大きな課題としては、「設定した規準は妥当か」「規準の適用は妥当か」「データ処理が妥当か」の三つをあげることができる。



始めの「設定した規準は妥当か」に応えるには、前述した「(1) 評価規準を設定する際の枠組みの設定をする」「(2) それぞれの枠組みに入るものを絞り込む」「(3) それぞれの枠組みに入れる」によって可能となろう。授業づくりと規準づくり、そして実践を繰り返しながら、客観性、妥当性などを高めていくことが重要である。

二つ目の「規準の適用は妥当か」については、授業展開の方法や学習活動に強く関係する。例えば、授業展開が、教師の説明に終始しているにもかかわらず、「見付けている」規準を当てはめて評価することがあってはならない。重要なことは、「見付けている」ことを評価で引き取ることのできる授業展開や活動を組み入れることである。また、「見付けている」ことを教師の観察のみで評価するのではなく、学習カード等に生徒が思考した記録が残るなどの評価情報を収集する工夫が求められる。

三つ目の「データ処理は妥当か」については、例えば、定期考査の点数のみで評価をすることのないようにすることである。評価の観点には、関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解があることを踏まえて、それぞれの観点を的確に評価することが大切である。そのためには、例えば、学習の途中での内容のまとめ、授業における学習カード等の方法によって、評価情報の取り方を工夫することをあげることができる。さらには、定期考査においては、記憶した知識の再現のみを問うなどの偏った出題とならないように、授業において学習した事柄をもとに新たな事例と比べたり、違いを見付けたりするなどの出題の工夫が求められる。

次に、評価・評定の意味については、「結果の持つ意味の検討を」を挙げている。指導した結果を評価したときに目の前にある数値や記号が何を意味しているのかを検討する。ここで重要と思われるのは、指導した教師が、実際の学びの姿と適合しているのかどうかを検討することである。設定した評価規準にもとづく指導であったのかどうか、学習状況の評価方法は適切であったのかどうか、その結果の処理は妥当であったのかどうか（例えば、小数値を整数に丸める四捨五入を繰り返し替えずと整数の値が高くなるので、小数値の丸めは1回とすることが挙げられる。）といったことを検討する。

最後に、今後に向けてについては、ここまでの指導と評価に取り組んできて、教師自身が振り返ることである。ここでは、「規準の改善」「授業の改善」を模索することが大切になる。

これらの課題を乗り越えていくことによって、保健体育科という教科教育の可能性を開く取組に向かいたいのである。

2. 授業づくりの留意点

思考・判断の評価が難しいことは、よく知られていることである。難しさを乗り越えるには、思考・判断がはたらく授業づくりを模索したい。そのためには、思考・判断をとらえること、授業の展開をつくること、評価規準及びその評価の手掛かりを目標と展開に対応させることの三つが重要となろう。

(1) 思考・判断をとらえる

授業者が思考・判断をとらえることができるかどうかは、授業の方向性を左右する。授業者の中にとらえた思考・判断は、学習者の思考・判断に直接にかかわるであろう。例えば、頭の中に何かを思い浮かべて「考える」とすることは、「思い出す」のか「違いを見付ける」のかによって大きく異なる。思考・判断を「思い出す」ととらえている教師には、記憶の再現をする授業しか展開できない可能性がある。

保健学習で重視する思考・判断とは、後者の「違いを見付ける」であるにとらえたときに、保健の指導内容（学習内容）との組合せで、例えば「健康の考え方について、様々な考え方の違いを見付けている」という評価規準を設定することができる。また、この評価規準は、思考・判断の目標として、本時の目標に位置付けることもできよう。

(2) 授業の展開をつくる

「健康の考え方について、様々な考え方の違いを見付けている」という評価規準を設定したならば、「健康の考え方」についての「違いを見付ける」ことが生徒の思考・判断がはたらく授業の展開をつくることである。これまでの、実践の取組を行った学習指導案の中には、本時の目標に思考・判断の目標を掲げているにもかかわらず、「学習内容・活動」の列には、思考・判断がはたらくことの期待できる展開が何も準備されていない（記述されていない）ものにしばしば出会う。このような学習指導案では、「健康の考え方」の「違いを見付ける」ことができないであろう。「健康の考え方」を「解説する」にすぎない展開になりがちになるのである。仮に、思考・判断のはたらく活動がうまくいく展開になったとしても、職人的な教師の直感に支えられてるようにみえる。これでは、思考・判断の指導と評価はおぼつかない。「健康の考え方」の「様々な考え方の違い」を「見付ける」ことのできる学習活動を、まさに、その展開を意図して、思考・判断を重視した授業づくりを模索したいのである。

(3) 展開と評価と目標を対応させる

授業の展開ができあがったときに必ず行っておくことは、評価規準及びその評価の手掛かりと目標が対応していることの確認である。これについては、三つの視点をあげておきたい。それは、「①本時の目標と学習活動」、「②学習活動と評価規準」、「③評価規準と本時の目標」である。

「①本時の目標と学習活動」が対応していない授業は、目標に掲げた指導内容（学習内容）を身に付けることができる方向に授業の展開が仕込まれていない。このような学習指導案では、何を授業者は教えるのか、何を生徒は身に付けるのかが不明確なままの授業となってしまう。

例えば、本時の目標として「健康の考え方について、様々な考え方の違いを見付けることができるようにする。（思考・判断）」と設定しているのであれば、次のような展開になるように学習活動を仕組みたい。

本時の目標としての、「違いを見付ける」ことに向かえるように、（一般的にとらえられている）健康の考え方の様々な違いについて、その違いの背景や意味を、それまでの生徒自身が有している知識や経験をもとに、グループでの活動などを通して出し合い、話し合い、その結果を発表する。そして、自分の意見や仲間の意見、資料に示された考えなどの結果を踏まえて、さらに生徒が自分自身に引き戻して再度検討したことを、振り返りで記述するなどの学習活動を行うのである。これによって、生徒が、「健康の考え方の様々な違い」を「見付けた」ことに理由を付けて記述するような授業を構築したい。それに向けて「出し合う」、「話し合う」、「発表する」、「記述する」などの表現することの方法を用いるのである。

本時の目標と活動を対応させるとは、思考・判断の目標に対応した展開を準備し、生徒が、学習カードに課題について自分の意見を書きだす、その意見を出し合う、話し合う、発表するなどの活動を展開する中で、いろいろな考えを比べる活動となるようにすることである。

「②学習活動と評価規準」が対応していない授業は、実践の取組でよくみられることである。恐らく、学習指導案を作成する前に評価規準を設定しておき、本時の指導案ができあがったときに、おもむろに評価規準を本時の該当する部分に当てはめているにすぎないのではないか。授業づくりの段階で、本時の思考・判断の目標に準拠した指導の展開をつくることのできないまま評価規準を当てはめているのでは、思考・判断のはたらく授業展開にはならない。思考・判断の学びを意図する授業からはかけ離れた授業となり、思考・判断の指導と評価をすることができない。「学習活動と評価規準」の確認は、準備した学習活動（展開）で、生徒の思考・判断がどのように進むのかを、前段で示した「動詞」に着目し、それを手掛かりに十分に吟味し、学習活動を練り上げることである。

学習活動と評価規準を対応させるとは、本時の目標と対応しているはずの学習活動の展開中（又は事後）の評価をする際に、計画した生徒の実現状況を測る「もの差し」として評価規準を用いて情報の収集を行い、次の展開へと導くことや、その評価結果をもとに次の指導の改善につなげるようにすることである。

「③評価規準と本時の目標」が対応していない授業は、授業の展開が本時の目標に準拠して構築されていれば、ほとんどは回避できる。まずは、授業の展開に重点を置くとよい。その上で、本時の目標を実現状況の評価ができる評価規準となっているのかどうかを吟味する。「①本時の目標と学習活動」、「②学習活動と評価規準」が対応していることが可能となれば、「③評価規準と本時の目標」は、問題なく対応させることができるであろう。

評価規準と本時の目標を対応させるとは、目標や評価規準の的確性や再検討の際に重要な視点となる。

これら三つの整合性を取るには、指導内容（学習内容）を明確化し、その指導内容（学習内容）が身に付く教材や方法を準備して授業展開を組み立てることが求められる。さらに、教材や方法は、生徒にわかりやすく解説する指導方法だけでなく、発見的に指導内容（学習内容）が身に付く指導方法や、指導内容（学習内容）自体に複数の正解があり得ることを前提とした授業づくりが求められよう。授業づくりと実践、生徒の反応から次の指導の改善に向けたサイクルを回し、生き生きとした授業の創出に向けて、保健学習の授業改善・研究を進めたいものである。

Q & A

Q1 保健の授業で、教科書を活用するときの留意点はありますか。

A1

「教科書を教える」授業で、教科書にあるものを全て取り上げようとする、授業時間が足りなくなります。教える内容を焦点化するために、例えば、教科書の本文の中から、学習指導要領及び解説に書かれていることを説明した部分にアンダーラインなどを入れてみましょう。アンダーラインを引いた部分の内容について、教科書や資料を用いて授業の展開をします。学習指導は、解説だけにとどまるのではなく、教師が教えようとする内容を生徒の話合いから意見や考えを引き出すことです。これによって、「教科書で教える」授業を創り出してみましょう。

Q2 教科書以外のことは教えてはいけないの。

A2

学習内容を学ぶときの教材を教科書以外から用いることや、教科書から導き出した学習内容を発展的に取り扱って抽象度の高い学習内容に向かうときの教材を加えることを考えてみましょう。気を付けなければならないことは、生徒が知らない（と思われる）ハウ・ツーや目標に掲げた学習内容とは関係のないものを持ち込まないことです。授業で取り上げることは、学習指導要領及び解説から読み取った学習内容（指導内容）を生徒が学ぶために必要なものに限ります。例えば、本時の目標を明確にしているにもかかわらず、その目標に向かうことから外れている教材や事例、遠回りしすぎる話題等は取り上げないことです。そのためには、授業づくりをする際に、設定した本時の目標が身に付く教材や方法が組み込まれた授業展開になっているかどうかについて、学習指導の展開の方法を慎重に吟味することが大切になるでしょう。

Q3 保健学習って何を教えればよいのですか。

A3

「何を教えるか」について一言でいうならば、「健康にかかわる科学的認識」を教えるにとらえてみましょう。小学校では身近な生活における保健学習の内容を実践的にとらえること、中学校では個人生活における保健学習における内容を科学的にとらえること、高等学校では個人生活や社会生活における総合的にとらえることが目指されています。それは、健康の保持増進にかかわる、何かの名称や説明を、記憶によって、暗記して身に付けるものに留まってはなりません。例えば、保健の学習で身に付けることが期待される資質・能力には、情報を集め、検討すること、あるいは、何をすべきか判断することなど、自分で考え、いろいろなものを活用していく力があります。保健学習においては、学んだ知識を記憶するに留まらず、それらを用いて、科学的に考え、判断することができるように、まさに、知識を活用する学習活動を重視することが求められています。

Q4 健康に関連する最先端のことを取り上げればいいのでは？

A4

健康に関連することに限りませんが、最先端のことは、科学技術が日進月歩の発展をする現代社会の中ではすぐに古くなって使えないものになってしまいます。そこで、最先端のことは教材や指導方法としてとらえてみましょう。重要なことは、教師が学習指導要領及び解説に示された考え（概念）を保健の指導内容（学習内容）としてとらえることです。その考え（概念）を学ぶことができる具体例として、必要な教材や方法を選択することが大切です。考え（概念）をとらえるには、これ以外のものは授業の学習内容には入れないという絞り込みが大切になります。最先端だから教えるのに値する価値があると判断するのは早計といわざるを得ません。教師には、考え（概念）と教材、学習方法を識別して授業の展開を組み立てる力が求められます。

Q & A

Q5 生活に役立つなければ意味がないのだから、対処の方法が大事なのは？

A5 生活に役立つ対処の方法は、直接的には個別指導やホームルーム活動等の特別活動で取り上げて実践的態度の育成を目指します。保健学習では、将来、生徒が健康的な日常生活を過ごすために出会うであろう課題に対し、知識・技能を駆使して使いこなせる能力の育成を目指してみましょう。このことは、現在の身の回りで役立つこと、対処とは異なります。保健学習の指導に当たっては、知識の習得にとどまらず、知識を活用する力を身に付けることができる授業展開を仕組むことです。その際、適切な意志決定や行動選択につながるよう思考力・判断力の育成をすることが重要です。

Q6 保健の評価の観点というのはどんなもの？

A6 評価の観点には、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」があります。一つの観点到偏った評価とならないようにすることが大切です。また、特に「知識・理解」はペーパーテストによる評価が用いられることが多いと思いますが、問題の出題形式を工夫することが大切です。単純な穴埋め方式や記号の選択による記憶のみによる評価とならないようにすることが大切です。

さらに、評価は、指導の結果であるということに留意しましょう。指導方法が解説中心の授業展開で評価問題が記憶を主として問う問題であれば、それほど問題は起こらないでしょう。例えば、理解しているかどうかを評価するには、学んだ事柄について「例を挙げて説明できる」という出題にすることが考えられます。思考・判断を評価するには、「違いを比較できるか」、「比較したものをもとに具体例を挙げて説明できるか」という出題が考えられます。これらの出題をするには、それぞれに対応した授業展開が求められるのです。授業で指導していないことを評価することはできないからです。保健の評価の観点を踏まえた指導と評価に取り組むことが重要です。

Q7 評価規準はどのように作成すればいいの？

A7 国立教育政策所教育課程研究センターが平成24年に公表している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校保健体育）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」を参考にしてみましょう。評価規準は、「内容」＋「活動」＋「実現状況」で作成することができます。「内容」は、指導内容（学習内容）のことで、学習指導要領及び解説をもとに明確化し、それに対応する本時の内容を教科書や資料から絞り込んでいきます。「活動」は、教師の解説やグループでの話し合い、実習等のことで、「内容」を学習する際に意欲を高めるのか思考・判断をは働かせるのかなどによって選びます。「実現状況」は、単元や本時に内容を身に付けることで、評価の観点到フィットした動詞を用います。（参照：理論編3ページ、「評価規準を作成する手順」）

Q8 思考・判断の評価はどのようにしたらいいの？

A8 授業展開の場面に、生徒が思考・判断する教材や指導方法を組み入れてみましょう。例えば、「見付ける」、「選ぶ」などの思考・判断のはたらく学習活動を取り入れてみることです。ワークシートの構成も重要になります。少なくとも「今日の感想」といった見出しは避けたいものです。代わって、例えば「今日の学習で、よくよく考えたこと」といったものがあげられます。これによって、「見付ける」、「選ぶ」や、何かと「比べる」、「共通項や異なる項の違いを指摘する」といった思考・判断のはたらく学習につながるでしょう。思考・判断の評価には、思考・判断のはたらく授業展開と、それに対応したワークシートづくりをする工夫改善が重要になります。

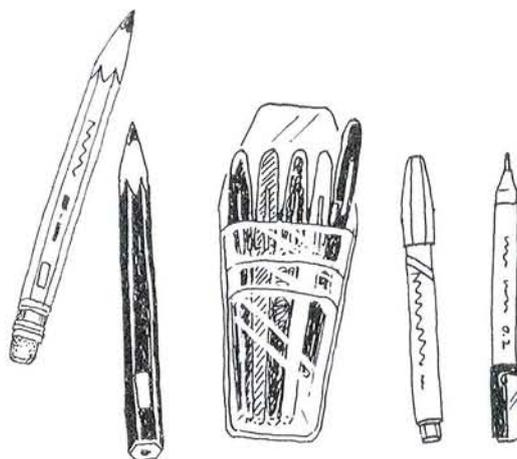
Q9

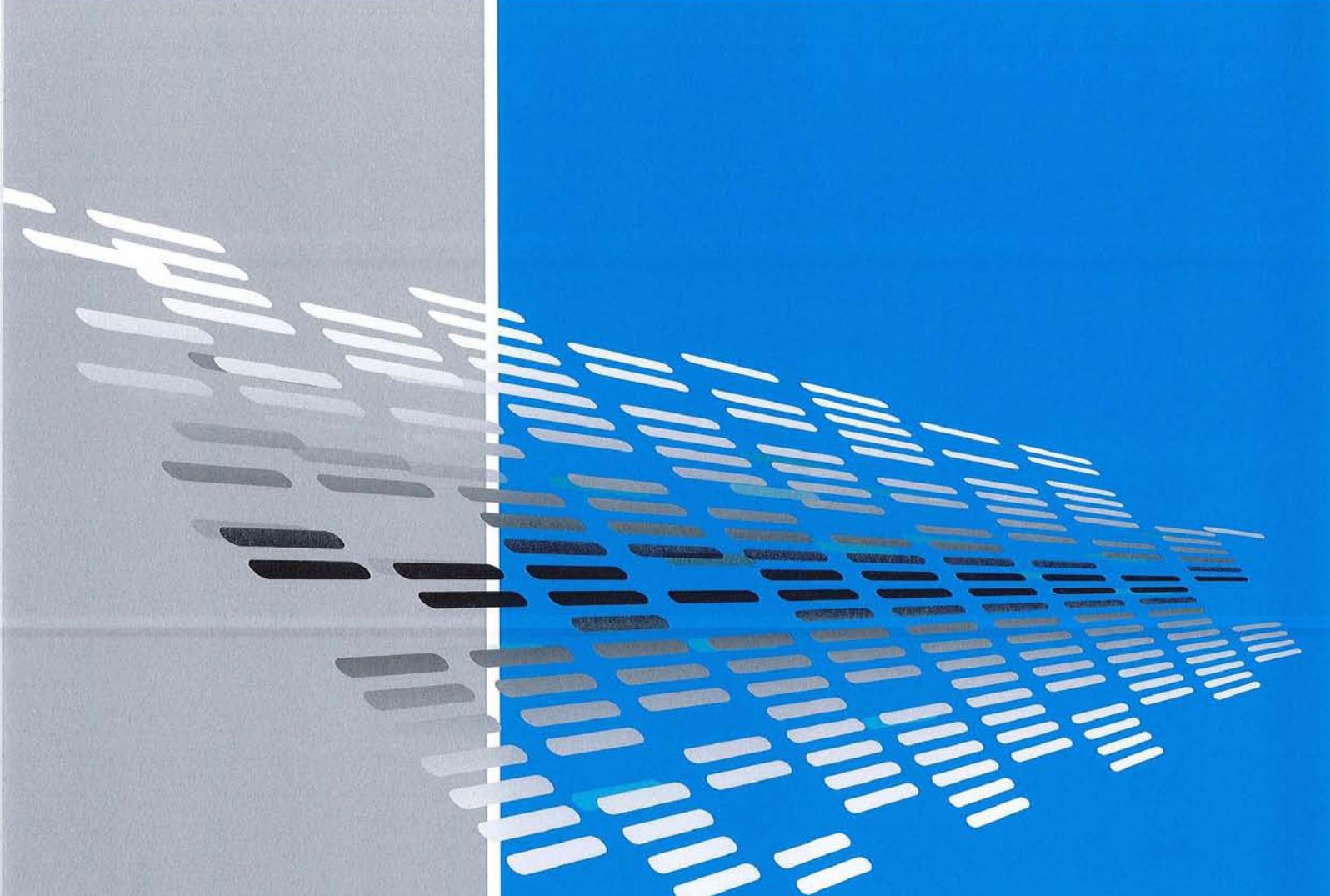
科目「保健」の定期考査を学年で統一の試験にしたときに、知識・理解の問題に偏りがちになるが、どのようにしたらよいでしょうか？

A9

学年で統一の試験は、保健の授業で行われる学習指導が教科書の全てを暗記していることを目指しているのならば、出題範囲を教科書に限ることで可能となるでしょう。しかし、このような授業は、思考・判断のはたらく授業展開にはならないことが多くみられます。そこで、これからの保健学習に必要な授業の創出を目指してはいかがでしょうか。そのためには、学年で統一の出題と、担当者の創意に委ねる出題とを混在させた定期考査とする方法もあります。各担当の出題部分は、学習内容に照らして、個々の担当が思考・判断などを目指した授業を行い、その部分を出題するのです。このようにすると、担当ごとに授業の特色が出たり、子供のアイデアの広がり生まれやすくなる授業の展開が可能となるでしょう。学校において定めた目標・内容のよりよい実現を目指して、創意工夫された授業を模索したいものです。

これらのことを実現するには、お互いの授業を相互に見合ったり、意見を求めたりするのも一つの方策です。保健学習について、保健体育科教師が科目「保健」の「目標」を理解して本時の目標を明確にしたり、自らの教材や方法をお互いに紹介したりすることによって、情報発信して共有することは、次への授業改善に向かうことにつながるでしょう。





II 实践編

第1学年

「喫煙と健康」

1. 単元

現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防 (イ) 喫煙と健康 (2時間扱い)

2. 単元の目標

- (1) 喫煙と健康に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 喫煙と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 喫煙は、生活習慣病の要因になること、その対策には個人及び社会的な対策を行う必要があることについて、基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 本授業について

本事例は、高校生が、喫煙と健康についての学習で、将来出会うであろう場面における課題の解決の学習を意図したものである。喫煙と健康については、小学校及び中学校で、急性影響や慢性影響、喫煙の開始要因、生活習慣病の要因となることなどを学んでいる。そこで、高等学校では、これまでの学習を重視し、個人への働きかけから社会環境での適切な対策を学び、設定された場面における課題の解決を考え、話し合うことによって、知識を活用する学習活動を展開しようとする試みである。

学習指導要領解説の「(イ) 喫煙、飲酒と健康」を、小単元として「喫煙と健康」として扱っている。なお、本事例は2時間扱いとしている。

4. 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	喫煙と健康に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	喫煙と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより総合的に考え、判断し、それらを表している。	喫煙は、生活習慣病の要因になること、その対策には個人及び社会的な対策を行う必要があることについて、基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①喫煙と健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①喫煙と健康について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 ②喫煙と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①喫煙は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること、喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における評価規準等の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足	喫煙と健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に、進んで意欲的に取り組んでいる。	喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、個人への働きかけ、社会環境への適切な対策が必要であることについて、学習したことを自分たちの生活や地域で取り組むことができる事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、具体例を挙げてそれらを説明している。	
おおむね満足	喫煙と健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に、意欲的に取り組もうとしている。	喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、個人への働きかけ、社会環境への適切な対策が必要であることについて、学習したことを自分たちの生活や地域で取り組むことができる事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、それらを説明している。	

6. 指導と評価の計画

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解	
喫煙と健康①	<p>(ねらい) 喫煙は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること、喫煙による健康被害を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、筋道を立ててそれらを説明できるようにする。</p> <p>(学習活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校から中学校までの学習を振り返る。 2 たばこの成分を分類し、喫煙による健康影響を整理する。 3 喫煙による健康被害を防止するための正しい知識、個人への働きかけ、社会環境への適切な対策をまとめ、根拠をもって説明する。 		①	①	ワークシート 観察 ワークシート
喫煙と健康② 本時	<p>(ねらい) 喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、個人への働きかけ、社会環境への適切な対策が必要であることについて、学習したことを自分たちの生活や地域で取り組むことができる事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、それらを説明することができるようにする。</p> <p>(学習活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喫煙による健康問題が、社会に与える影響を整理し、社会的な取組を、今までの学んだ知識を挙げながら説明する。 2 地域でできる未成年者に喫煙を開始させないための取組をグループ内で話し合う。 3 喫煙開始の「きっかけ」を挙げ、対策を考える。 4 喫煙による健康問題に対して行われている社会的な取組が必要であることを説明する。 	①		②	ワークシート 観察 ワークシート

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

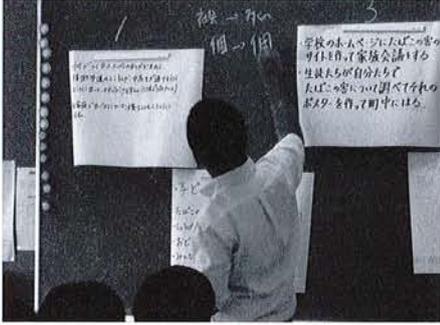
喫煙と健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に、意欲的に取り組もうとすることができるようになる。(関心・意欲・態度)

喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、個人への働きかけ、社会環境への適切な対策が必要であることについて、学習したことを自分たちの生活や地域で取り組むことができる事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、それらを説明することができるようにする。(思考・判断)

(2) 学習過程 (本時 2 / 2)

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入	<p>健康課題と対策の背景・現状をとらえる。</p> <p>喫煙による健康影響に対して行われている個人的な取組を確認する。</p> <p>ワークシート①の説明をうける。</p>	<p>※喫煙に関する情報を整理できるように、健康課題と対策の背景と現状を説明する。</p> <p>【説明】前時までの学習を振り返り、課題を班で話し合い、個人的な解決策を考えさせる。</p> <p>※ワークシート①をもとに場面設定を行う。</p> <p>・自分のこととしてとらえること(当事者意識)ができるようにする。</p>
展開	<p>【発問1】住んでいる地域で地域住民ができることで、未成年者が喫煙を開始しないような働きかけには、どんなことがありますか？</p> <p>1 本時の場面設定を理解する。</p> <p>①地域住民であること。</p> <p>②子どものいる保護者であること。</p> <p>③地域の保健センターの会合であること。</p> <p>2 ワークシート②に、自らの考えを書き出す。</p> <p>「I あなたのアイデア」の欄に記入する。</p> <p>【生徒の予想される反応】</p> <p>①駅などで呼びかける。</p> <p>②禁煙ポスターを作成する。</p> <p>③ごみを持ち帰る地域づくり(きれいな状態で何も捨てられないようにする)</p> <p>④警察署でしか買えないようにする。</p> <p>⑤たばこ税をもっと高くする。 など</p> <p>3 机を移動し、グループを作る。</p> <p>4 グループ内でワークシート②の「I あなたのアイデア」を発表する。仲間の意見は、「II グループで出たアイデア」に記入する。追加のひらめきがあれば記入する。</p>	<p>・設定された場面において求められていることは、高校生の喫煙開始を予防する方策を提案する住民の側であることをおさえる。</p> <p>〈指示〉始めに、自分の考えを「I あなたのアイデア」に書き込む。ここでは、周りの人と話さないで、自分の考えを書き出す。</p> <p>・働きかけの視点として「(地域住民である)自分にできそうなこと」、「地域のみならずできそうなこと」をおさえる。</p> <p>・①正しい知識の普及、②個人への働きかけ、③社会環境への対策については、直接、この言葉を出すことはしない。グループの話し合いが、「知識」、「個人」、「社会環境」の枠組みの意見で進むように働きかける。</p> <p>★評価【関心・意欲・態度】(観察・ワークシート)</p> <p>喫煙と健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>



段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
(展開)	<p>発問2 発問1で出た働きかけのうち、喫煙開始の「きっかけ」に対する対策には、どんなことがありますか？</p> <p>(フラッシュカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きっかけ」が起きないようにするには？ <p>1 グループでの話し合いを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの手の届く場所や見える場所にたばこを置かない。 ②好奇心で吸って依存になるとやめられなくなること伝える。 ③たばこを吸っているところを子どもに見せない。 ④いろいろなところに喫煙禁止の看板をつくる。 ⑤たばこがなぜ悪いかの講習会を定期的に行う。 ⑥公共の場で話し合う。 ⑦灰皿をなくして、たばこを吸う環境をなくす。 ⑧幼い頃から喫煙を開始しないことを植え付けるように、保育園、学校、保護者、地域が一体となってキャンペーンを行う。 </div> <p>2 模造紙 1/4 紙にグループの意見をまとめて書き出す。</p> <p>3 黒板に貼り、発表する。</p> <p>4 発表を聞き、自分の考えと仲間の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>喫煙による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、個人の働きかけ、社会環境への適切な対策が必要であること。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の立場のうち、喫煙に関する開始の要因としての「きっかけ」に対する対策に限定する。 <p>※机間支援：場面のイメージが、うまく湧かなかったり、誤解をしている生徒に助言する。生徒の思考が深まるように個別に賞賛したり、修正したりしながら、アイデアが広がるように働きかける。</p> <p>〈指示〉グループでの話し合いは、まずワークシート②の「I あなたの考え」に書き出したアイデアをグループ内で発表する。次に、合意できる意見、個人の発表を聞いて新しくひらめいたことを「II グループの考え」のワークシートに書き込んでいく。</p> <p>【説明】書き出している考えを見ると、喫煙開始の「きっかけ」には、いくつかの分類ができる。その「きっかけ」が起きないようにアイデアを考える。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★評価【思考・判断】(ワークシート)</p> <p>喫煙と健康ついて、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、課題の解決につながる取組を見出したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> </div>
まとめ	<p>本時のまとめをワークシート③に書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記入後にワークシートを回収する。 <p>【説明】喫煙による健康問題に対して行われている地域での取組などの社会的な取組を確認する。</p>

「喫煙と健康」 ワークシート①

1年 組 番 氏名 _____

☆本時の課題

未成年者が喫煙を開始しないための働きかけは、どんなことを整えていけばいいだろう

【役割】

みなさんは、〇〇市在住の住民で、未成年の子どもがいます。

【状況①】

今日は、〇〇市の保健センターが主催する「住民が健康で生活するための推進会議」に来ています。

【状況②】

「住民が健康で生活するための推進会議」では、地域や家庭で、未成年者が喫煙を開始しないための働きかけをするために、どんなことが考えられるのかを話し合っています。

【状況③】

子どもを育てている親として、自分やその家庭だけの健康問題に留まるのではなく、参加した親や地域全員が、今日の話し合いを機に「〇〇市の未成年者が喫煙を開始しないための方策を考える」こととしています。

【状況④】

さらには、「〇〇市民が、健康で元気に生活できるように、知識をもとに方法を身に付けること」が求められています。

【考える上での視点】

1. 地域住民や親として、どんなことができるのか。
2. 自らの喫煙に関する知識を使って、未成年の子どもをはじめ、地域が健康で元気に生活するための話し合いを深める。
3. 「あなた」が、参加者の中では、いろいろな喫煙に関する知識を有している。あなたは、参加した住民全員が、分かりきっていることでも確認したり、よく分からないことでも予想して意見を出したりする。

「喫煙と健康」 ワークシート ②

【発問 1】 住んでいる地域で地域住民ができることで、未成年者が喫煙を開始しないようにする働きかけには、どんなことがありますか？

1年 組 番 氏名 _____

I あなたのアイデア

- 1 駅などで呼びかける。
- 2 禁煙ポスターを作成する。
- 3 ごみを持ち帰る地域づくり（きれいな状態で何も捨てられないようにする）
- 4 警察署でしか買えないようにする。
- 5 たばこ税をもっと高くする。

II グループで出たアイデア

- 1 禁煙ポスターを作成する。
- 2 公共の場で話し合う。
- 3 禁煙の場所を減らす。

【発問 2】 発問 1 で出た働きかけのうち、喫煙開始の「きっかけ」に対する対策には、どんなことがありますか？

I あなたの意見

- 1 公共の場で話し合う。
- 2 禁煙ポスターを作成する。

II グループの意見

- 1 好奇心で吸って依存になるとやめられなくなることを伝える。
- 2 いろいろなところに喫煙禁止の看板をつくる。
- 3 たばこがなぜ悪いかの講習会を定期的に行う。
- 4 公共の場で話し合う。

「喫煙と健康」 ワークシート③

1年 組 番 氏名 _____

- ◎「今日の、『未成年者が喫煙を開始しないための働きかけ』の授業で学んだこと（発見したこと、よくよく考えたこと、など）について、具体例を挙げて振り返り、まとめよう」

(1)「未成年者が喫煙を開始しないための働きかけ」の授業で学んだこと（発見したこと、よくよく考えたこと、など）具体例を挙げて……

■十分満足できる状況

- ①今日の授業はむずかしかった。自分が将来出会うであろう地域住民という立場だったからだ。そこから見えてきたことは、喫煙の防止について地域住民が対策をとることですぐいふんと変わるのではないかということだ。講習会に参加したり、ポスターを貼ったりするなど、住民である自分達にもできることがあることを見つけた。将来は、どのくらいできるか分からないけれど、自分と子ども、地域の人たちとともに喫煙防止の取組にかかわってみたい。

■おおむね満足できる状況

- ①たばこの害を、地域住民によって伝えることも必要だと思った。ポスターを貼ったり、講習会をするなどがあって、自分達にできることがあるとわかった。
- ②たばこが体に害があるということ、学校の授業などを通して既に知っていると思うので、環境を整えることが地域住民の力ですべきだと考えた。大人が吸うことをやめたり、販売するお店を限定したり、既に吸っている未成年者に地域住民が熱心に注意していくことなどが考えられた。

(2) その他、感じたことや、思ったことなど……

【生徒の感想】

- ①自分達のできることはたくさんあるんだなあ。
- ②皆の意見が活発に出て、おもしろかった。いろんな工夫ができるんだと思った。
- ③国が法律や制度を決めることも大切だが、それだけではダメで、地域住民をはじめ個人の意識をかえるような社会的な取組が大切と感じた。

第1学年

「ストレスへの対処」

1. 単元

現代社会と健康 ウ 精神の健康 (ウ) ストレスへの対処 (2時間扱い)

2. 単元の目標

- (1) ストレスへの対処について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) ストレスへの対処について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 精神の健康を保持増進するには、ストレスに適切に対処していくことが重要であることについて、基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 本授業について

本事例は、精神の健康を保持増進するために重要であるストレスへの対処について理解するとともに、その課題を見付けたり、解決の方法を選んだりする学習を意図したものである。そのため、発問を用いてグループでの話し合いや意見交換を行い、主体的な学習への取組を引き出そうとした。また、出された意見を分類することによって思考させ、自分のことに置き換えた振り返りをさせる授業を展開することを目指したものである。なお、本事例は2時間扱いとしている。

4. 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	ストレスへの対処について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	ストレスへの対処について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	精神の健康を保持増進するには、ストレスに適切に対処することが重要であることについて、基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①ストレスへの対処について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①ストレスへの対処について、学習したことを、自分たちの生活や事例と比較したり、分類したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①人間が生きていくうえで、ストレスを感じることも自体は自然なこと、適度なストレスは精神発達に必要なものであること、過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすこと、ストレスの原因には、物的原因や心理的・社会的要因など様々なものがあること、ストレスの原因の影響は、要因そのものの大きさとそれを受け止める人の精神や身体の状態によって異なることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②ストレスへの対処には、原因については原因となっている事柄への対処、自分自身の受け止め方を見直すことがあり、心身に起こった反応についてはリラクゼーションの方法での緩和があることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における評価規準等の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足	ストレスの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しへの話し合いや意見交換などの学習活動に積極的に参加しようとしている。	ストレスへの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しをもとに、事例と自分を比較したり、分類したりするなどして、具体例を挙げながら筋道を立ててそれらを説明している。	ストレスへの対処には、原因については原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すことがあり、心身に起こった反応についてはリラクセーションの方法で緩和することがあることについて、理解したことを、具体例を挙げて記述している。
おおむね満足	ストレスの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しへの話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとしている。	ストレスへの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しをもとに、事例と自分を比較したり、分類したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	ストレスへの対処には、原因については原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すことがあり、心身に起こった反応についてはリラクセーションの方法で緩和することがあることについて、理解したことを記述している。

6. 指導と評価の計画

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		ア 関心・ 意欲・ 態度	イ 思考・ 判断	ウ 知識・ 理解	
ストレスの原因と影響	(ねらい) ストレスの原因には物理的要因や心理的・社会的要因など様々なものがあり、それらの影響は要因そのものの大きさとそれを受け止める人の精神や身体の状態によって異なることについて、筋道を立ててそれらを説明できるようにする。				
	(学習活動) 1 ストレスの原因について理解し、まとめる。 2 ストレスを受け止める人の精神や身体の状態によって影響が異なることについて、筋道を立てて説明する。	①		①	ワークシート 観察 ワークシート
ストレスへの対処 本時	(ねらい) ストレスの対処には、ストレスの原因となっている事柄に対処すること、ストレスの原因についての自分自身の受け止め方を見直すことがあることについて、理解したことを記述することができるようにする。				
	(学習活動) 1 ストレスの対処について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に取り組む。 2 ストレスの対処について、自分の生活と比較したり、分類したりするなどして、話し合う。 3 ストレスへの対処には、原因については原因となっている事柄への対処、自分自身の受け止め方を見直す等があり、心身に起こった反応についてはリラクセーションの方法で緩和することがあることを理解し、まとめる。		①	②	観察 観察 ワークシート (別途小テスト)

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

ストレスへの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しをもとに、事例と自分を比較したり、分類したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。(思考・判断)

ストレスへの対処には、原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すこと、心身に起こった反応については、リラクゼーションの方法で緩和することがあることについて、理解したことを記述することができるようにする。(知識・理解)

(2) 学習過程 (本時 1 / 2)

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入 3分	1 本時の内容を聞く。 2 机を移動し、グループを作る。 3 事例を読み、状況を共有する。	【説明】 本時は、事例をもとに、ストレスの対処について学習することを伝える。 ※ワークシートを配付する。 【説明】 ある 20 代男性がストレスを抱えている場面から、ストレスの対処のしかたを考えさせる。
展開 40分	1 ワークシートにアンダーラインを引く。 【予想される生徒の反応】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 営業ノルマに振り回され ・ 依頼主とのトラブルを抱える ・ 営業職が自分に向いていないからと思った ・ 自分の夢と現実との違いを思い知らされた ・ 現在の会社を選択したこと ・ 自分にはそのように感じるができない ・ このままでよいのかどうか不安が日増しに大きくなっている ・ 専門学校時代の友人は建築士として活躍しているという噂を聞く 	<指示> Aさんのストレスの原因と思われるところにアンダーラインを引かせる。 ※机間指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業促進, 思考の限定を行う。自分の考えでアンダーラインを引いたことについて, 受け入れたり, 賞賛したりする。 ・ 指示が伝わっているかどうか, 行うべき作業が理解できているかどうかを観察し, 場合によっては補足説明を行う。 ・ 記入状況を確認する。うまくイメージできない生徒には補足説明を行い, 的外れのところに引いている生徒には再考を促す。 <指示> グループで意見を出し合い, 意見交換をさせる。自分にはなかった意見は, 書き加えさせる。
	2 意見交換しながら, ワークシートに意見を書き加える。 【発問 1】 Aさんのストレスの原因から, その影響を小さくするにはどうすればよいと思いますか?	
	3 グループ毎に意見を出し合う。 【予想される生徒の反応】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノルマを減らしてもらおう ・ ノルマ消化が自分の成長になると考える ・ トラブルを解決する ・ 建築士として採用してくれる会社を探す ・ 建築以外の職種に転職する (家業を継ぐ) ・ 営業職のやりがいを理解する ・ 友人と自分は違う人生だと考えなおす ・ とにかく休みを取って, ゆっくり考える 	<指示> 各グループで意見交換させる。 ※机間指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業促進, 思考の限定を行う。出された意見について, 受け入れたり, 賞賛したりする。 ・ 指示が伝わっているかどうか, 行うべき作業が理解できているかどうかを観察し, 場合によっては補足説明を行う。 <指示> 意見が複数出たところで, 意見交換を止めさせる。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価														
	<p>＜発問2＞ あなたがAさんの立場なら、どのように対処したいと思いますか。その理由も考えてみよう。</p> <p>1 グループ毎に意見を出し合う。</p> <p>2 マグネットシート（A4：2枚）にグループの意見をまとめる。</p> <p>3 黒板に貼り付けて、それを説明しながら発表する。</p> <div data-bbox="220 472 826 969" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の部署でやりがいを見付ける (理由) 配置転換を希望し続けても、会社との関係が悪化するだけで自分の得にならないから ・転職する (理由) 自分の納得のいく仕事であれば、多少悪条件でも頑張れると思うから ・当分休暇を取り、ゆっくり考える (理由) 考える時間をもつことで、なにかきっかけがつかめるかもしれないから ・友人などに相談する (理由) 自分一人では考えつかない方法を教えてもらえるかもしれないから </div>	<p>＜指示＞各グループの意見が複数出たところで、意見をまとめさせ、対処法をマグネットシートに書いてうたえで、リーダーに理由とともに発表させる。</p> <div data-bbox="858 432 1433 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【思考・判断】</p> <p>ストレスへの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しをもとに、事例と自分を比較したり、分類したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。(ワークシート)</p> </div> <p>【説明】適切な対処について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的かつ冷静な対処である。主観的かつ感情的な対処は社会に受け入れられないことがある。 														
(展開40分)	<p>＜追発問＞ あなたがAさんの立場でとった対処は、どのように分類できると思いますか。</p> <p>1 グループ毎に意見を出し合う。</p> <div data-bbox="220 1115 826 1312" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分」「自分以外」 ・「そもそものこと」「これからのこと」 ・「一人で」「みんなで」 ・「仕事に関すること」「自分に関すること」 </div> <p>2 指名されたグループは、意見を発表する。</p> <p>＜板書例＞</p> <table border="1" data-bbox="236 1417 810 1765" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">出発点</th> <th style="width: 50%;">通過点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「自分以外」</td> <td>「自分」</td> </tr> <tr> <td>「そもそものこと」</td> <td>「これからのこと」</td> </tr> <tr> <td>「一人で」</td> <td>「みんなで」</td> </tr> <tr> <td>「仕事に関すること」</td> <td>「自分に関すること」</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>↓</td> </tr> <tr> <td>原因そのものへの対処</td> <td>とらえ方を変えることによる対処</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 机を移動し、元の座席配列に移動する。</p>	出発点	通過点	「自分以外」	「自分」	「そもそものこと」	「これからのこと」	「一人で」	「みんなで」	「仕事に関すること」	「自分に関すること」	↓	↓	原因そのものへの対処	とらえ方を変えることによる対処	<p>＜指示＞グループで出された意見を、対処の「出発点」と「通過点」に着目させうたえで分類させる。また、分類名をつけさせる。</p> <p>＜指示＞分類名がつけられたところで作業を止め、分類名とともにその理由も発表させる。最終的には「原因そのものへの対処」と「とらえ方を変えることによる対処」の2つに分類させる。</p> <div data-bbox="858 1339 1433 1536" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【思考・判断】</p> <p>ストレスへの対処について、原因の対処や受け止め方の見直しをもとに、事例と自分を比較したり、分類したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。(観察、ワークシート)</p> </div> <p>【説明】発表を終えたら、原因対処の視点で生徒の答えと関連付けて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処には原因対処として、「原因そのものへの対処」と「とらえ方を変えることによる対処」がある。 ・原因対処以外に、気晴らし、買い物、散歩などの情動対処がある。 ・原因対処はいつでも可能という訳ではないが、情動対処だけではストレスのものは取り除けない。やり過ぎて時間稼ぎをしてもストレスのものは消えない。ストレスのもとに働きかけることが大切である。 <p>＜指示＞机の配置を元に戻させる。</p>
出発点	通過点															
「自分以外」	「自分」															
「そもそものこと」	「これからのこと」															
「一人で」	「みんなで」															
「仕事に関すること」	「自分に関すること」															
↓	↓															
原因そのものへの対処	とらえ方を変えることによる対処															

2 「ストレスへの対処」

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
I 理論編 II 実践編 まとめ 7分	<p>今日の授業のまとめ 本時を振り返って、ストレスへの対処について、「どんなとき」に「どのように」していきたいか。自分のことに置き換えて記述して下さい。</p>	
	<p>1 本時のまとめをワークシートに書き出す。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きていく中でストレスを避けることはできないと思う。ストレスの受け止め方を変えるのは、視点や角度を変えたり、目標設定を変えたりするなどすればできそうな気がした。 ストレスは時間が経過すれば消えると思っていたがそうではなかった。原因に直接向き合うことも重要だと感じた。 自分ではどうしようもないときは、友人などに相談することで、解決策が見つかったり視点の変更がしやすくなったりすると思った。 原因がよくわからなくても、散歩や気晴らし、スポーツをするなどして体を動かすなどの方法もあると思った。 	<p><指示>本時のまとめをワークシートに記入させる。</p> <p>★評価【知識・理解】 ストレスへの対処には、原因については原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すことがあり、心身に起こった反応についてはリラクセーションの方法で緩和することがあることについて、理解したことを記述している。(後日の小テスト)</p> <p>※ワークシートを回収する。</p>

第1学年 保健 ワークシート 「ストレスへの対処」

1年 組 番 氏名 _____

○下の事例で、Aさんにとって、入社してからのストレスの原因になっているものには、どんなものがあると思いますか。

※ 文中にアンダーラインを引いてみよう。

【事例】

◎ Aさん 男子 21歳 社会人1年目 住宅メーカー勤務

将来、一戸建て住宅の設計をしたいという夢をもち、建築の専門学校で2級建築士の資格を取得したAさん。

就職活動中、第1希望の会社だけでなく希望する会社のほとんどから内定をもらうことができなかったAさんは、営業職で採用内定をもらえた住宅メーカーに就職した。それは、いつか設計部署に配属されるかも、という期待をもっていただけだ。

しかし、入社してからは、営業ノルマに振り回され、依頼主とのトラブルを抱えるなど苦勞がたえない。

自分なりに努力しているのに結果が出ないのは、営業職が自分に向いていないからと思ったAさんは、最近、上司に建築部署への配置転換を申し出たが、この会社に前例がなく、可能性はゼロであると言われてしまった。

自分の夢と現実との違いを思い知らされたAさんは、自分が現在の会社を選択したことに疑問をもつことが多くなり、イライラする毎日を過ごしている。

そんな様子を見た会社の先輩からは、「辛抱していたら営業の楽しさがわかってくるよ」と言われるが、自分にはそのように感じるができない。

親からは、会社を辞めて家業を手伝ってみないかと言われてしている。

現在の建築の仕事は捨てきれないが、正直に言えば、このままでいいのかどうか不安が日増しに大きくなっている。

最近では、専門学校時代の友人が建築士として活躍しているという噂を聞くたびに焦るばかりで、何をどうしていいかわからず、出口の見えないAさんである。

2 「ストレスへの対処」

【問1】 Aさんのストレスの原因から、その影響を小さくするにはどうすればよいと思いますか。

※ 班の意見

【記入例】

ノルマ消化が自分の成長になると考える。 など

※ 他班の意見

【記入例】

ノルマを減らしてもらおう

建築士として採用してくれる会社を探す

建築以外の職種に転職する（家を継ぐ）

営業職のやりがいを理解する

友人と自分は違う人生だと考えなおす

休みを取って、ゆっくり考える など

【問2】 あなたがAさんの立場なら、どのように対処すると思いますか。その理由も考えてみよう。

※ 班の意見

【記入例】

今の部署でやりがいを見つける。

（理由）配置転換を希望し続けても、会社との関係が悪化するだけで自分の得にならないと思うから など

※ 他班の意見

【記入例】

・ 転職する

（理由）自分の納得のいく仕事であれば、多少悪条件でも頑張れると思うから

・ 休暇をとり、ゆっくり考える

（理由）考える時間をもつことで、なにかきっかけがつかめるかも知れないから など

【まとめ】

本時を振り返って、ストレスへの対処について、「どんなとき」に「どのように」していきたいかを、自分のことに置き換えて記述してください。

■十分満足できる状況

ストレスの原因そのものはなくなる。でも、影響を軽くすることができたことがわかった。自分の力を高めたり、考えの視点を換えることはとても役に立つと思う。また、勉強に疲れたときは、気分転換に散歩したりしようと思った。

(ストレスへの対処で、理解したことを自分の生活の具体例と結びつけて説明している)

■おおむね満足できる状況

生きていく中でストレスを避けることはできないと思う。ストレスの受け止め方を変えるのは、視点や角度を変えたり、目標設定を変えたりするなどすればできそうな気がした。

(ストレスへの対処で、理解したことを自分のことに置き換えて記述している)

第1学年

「自己実現」

1. 単元

現代社会と健康 (ウ) 精神の健康 (エ) 自己実現 (1時間扱い・ストレスへの対処2)

2. 単元の目標

- (1) 自己実現について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己実現について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 精神の健康を保持増進するには、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることについて、基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 本授業について

本事例は、精神の健康を保持増進するために重要である自己実現を図ることについて理解するとともに、その課題を見付けたり、解決の方法を選んだりする学習を意図したものである。自己実現は、それに向かう過程の学習はできても、最終的には個人の健康観に左右される。そのため、ケーススタディの例を発問によって考えさせ、グループでの話し合いや意見交換を通して思考をはたらかせる展開とした。特に、まとめでは、自分に置き換えて振り返りをさせることで、高校生の時点での自己実現と向き合える授業の展開を目指したものである。

4. 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	自己実現について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	自己実現について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	精神の健康を保持増進するには、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることについて、基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①自己実現について、その成り立ちの話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとしている。	①自己実現について、学習したことを、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している	①人間の欲求には、自分自身を高め、もてる力を最大限に発揮したいというものがあること、自己実現は、自己の欲求や価値観に基づき具体的に目標を掲げ、他者の価値観も尊重しつつ現実を踏まえながら行動し、その結果を自己評価する過程を繰り返すことによって成り立つことについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における観点別の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足	自己実現について、その成り立ち（過程）の話し合いや意見交換などの学習活動に積極的に参加して取り組もうとしている。	自己実現について、これまで学習してきたことをもとに、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、具体例を挙げながら筋道を立ててそれらを説明している。	自己実現の欲求について、理解したことを、具体例を挙げて記述している。
おおむね満足	自己実現について、その成り立ち（過程）の話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとしている。	自己実現について、これまで学習してきたことをもとに、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	自己実現の欲求について、理解したことを記述している。

6. 指導と評価の計画

※ 自己実現は（ウ）ストレスへの対処と合わせて3時間扱いとするが、ここでは1時間のみを示す。

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		ア 関心・ 意欲・ 態度	イ 思考・ 判断	ウ 知識・ 理解	
自己 実現	<p>（ねらい）自己実現は、自己の欲求や価値観に基づき具体的に目標を掲げ、他者の価値観も尊重しつつ現実を踏まえながら行動し、その結果を自己評価する過程を繰り返すことにより成り立つことを、筋道を立てて説明できるようになる。</p>				
	<p>（学習活動）</p> <p>1 自己実現について、課題解決に向けての話し合いや意見交換をする。</p> <p>2 自己実現について、自分の生活と比較したり、分析したりするなどして、話し合う。</p> <p>3 人間の欲求や自己実現の成り立ちによって精神の健康が増進されることについて理解し、まとめる。</p>		①		<p>観察 ワークシート</p> <p>① （後日の小テスト）</p>

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

自己実現について、学習したことを、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。（思考・判断）

人間の欲求には、自分自身を高め、もてる力を最大限に発揮したいというものがあること、自己実現は、自己の欲求や価値観に基づき具体的に目標を掲げ、他者の価値観も尊重しつつ現実を踏まえながら行動し、その結果を自己評価する過程を繰り返すことによって成り立つことについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。（知識・理解）

(2) 学習過程（本時1／2）

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入 3分	<p>1 本時の内容を聞く。</p> <p>2 机を移動し、グループを作る。</p> <p>3 事例を読み、状況を共有する。</p>	<p>【説明】本時は、前時に用いた事例をもとに、自己実現を図ることについて学習することを伝える。</p> <p>※ワークシート①を配布する。</p> <p><指示>ある20代男性の事例から、自己実現の図り方について考えさせる。</p>
展開 40分	<p><発問1> Aさん自身が、自分のもっている力を最大限に発揮させるためには、「どこ」を「どうすれば」よいと思いますか。</p>	<p>【説明】人間の高次な欲求について人間の欲求の高次なものの一つとして、自分自身を高め、もてる力を最大限に発揮したいというものがあると伝える。</p>

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
	1 ワークシート①に自分の意見を記入する。 2 グループ毎に意見を出し合う。 <div data-bbox="220 338 820 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同僚のよいところを学ぶ ・ 自分の得意な技能を生かせる職種を選ぶ ・ いろいろなものに挑戦する ・ 自分の目標をできるだけ高くもつ ・ 失敗してもあきらめない ・ いろいろな角度から考えてみる ・ 繰り返し挑戦する </div> 3 指名されたグループは、意見を発表する。	<p><指示>自分の意見をワークシート①に記入させる。 <指示>グループで意見を出し合い、意見交換させる。自分にはなかった意見は、書き加えさせる。</p> <p>※机間指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業促進、思考の限定を行う。生徒の出した意見について、受け入れたり、賞賛したりする。 ・ 指示が伝わっているかどうか、行うべき作業が理解できているかどうかを観察し、場合によっては補足説明を行う。 ・ 記入状況を確認する。うまくイメージできない生徒には補足説明を行い、的外れの意見を出している生徒には再考をうながす。 <p><指示>各グループの意見が複数出たところで、意見交換を止め、発表させる。発表は板書し、追発問に使える意見を整理しておく。</p>
(展開40分)	<p><追発問> すぐに成果が上がらなかったとしても、「失敗してもあきらめないこと」や「繰り返し挑戦すること」などにより、最大限の力を発揮することができます。このようなときに、Aさんの気持ちはどのようになると思いますか。</p>	
	1 追発問から新しい視点で意見を個人用ワークシートに記入する。 <div data-bbox="220 1093 820 1554" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同僚のよいところを学ぶ ・ 疲れる ・ かえってやる気をなくす ・ あきらめてしまうかも ・ 完全な成功でなくてもうまくいったところをとらえる ・ 昨日の自分と比べる ・ 伸びたところを見付ける ・ がんばっている自分をほめる ・ 成功をイメージする ・ うまくいく手立てを考え出す </div>	<p><指示>数名の生徒から意見を出させる。 【説明】心の健康について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この高次な欲求は自己実現である ・ 何か成功したことだけが自己実現ではなく、その過程で自分の力を最大限発揮することが自己実現である ・ また、その過程の中で自分なりの工夫や努力をしていく時間を過ごすことも自己実現といえる ・ このような状態は、心が健康といえる
	<p><発問2> Aさん(あなた)が、生涯を通じてよりよい方向に向かうためには、「目標」、「行動」、「評価」を、どのように繰り返せばよいと思いますか。</p>	
	1 グループ毎に意見を出し合う。 2 マグネットシート(A4:3枚)にグループの意見をまとめる。 3 マグネットシートを黒板に貼り付けて、それらを説明しながら発表する。 <div data-bbox="220 1899 820 2092" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に合った目標を掲げる ・ 適切な目標に向けて適切に行動する ・ 出た結果は、感情的ではなく、適切に評価する ・ 自己評価をふまえ目標を設定する </div> 4 机を移動し、元の座席配列にもどす。	<p><指示>各グループの意見が複数出たところで、意見をまとめさせ、自己実現の図り方をマグネットシートに書いたうえで、リーダーに発表させる。</p> <div data-bbox="852 1823 1426 1980" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【思考・判断】</p> <p>自己実現について、学習してきたことを、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> </div> <p><指示>机の配置を元に戻させる。</p>

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
まとめ 7分	<p>今日の授業のまとめを書き出しましょう。</p> <p>本時を振り返って、自分の持っている力を最大限に発揮するためには、「どこ」を「どのように」していきたいか。自分のことに置き換えて「私は、」という主語を付けてまとめること。</p> <p>1 本時のまとめをワークシート②に書き出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、一人で悩んでしまうことが多かった。目標を見直すことも含めて検討し、周りにも相談しながら、自分のやりたいことを考え、決断していきたい。 ・私は、失敗してしまうとあせってしまい、続けて失敗することが多かった。失敗したときでも、物事を前向きに捉えながら、やり直しをおそれず取り組んでいきたい。 ・人それぞれに自己実現の図り方は違うことがわかった。私は、自分の自己実現が出来るように、人の意見を聞きながら、新たな方法を見付け実践してみたい。 ・自分の思い通りにならないときは、あきらめてしまってもしなかった。これからは、すぐにあきらめてしまうのではなく、出来そうなところを見付けたり、簡単にはあきらめないようにしたりして、前向きに取り組んでいきたいと私は思った。 </div>	<p>※ワークシート②を配布する。</p> <p><指示>本時のまとめとして、自分の例を具体的にあげて、ワークシート②に記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【知識・理解】</p> <p>人間の欲求には、自分自身を高め、もてる力を最大限に発揮したいというものがあること、自己実現は、自己の欲求や価値観に基づき具体的に目標を掲げ、他者の価値観も尊重しつつ現実を踏まえながら行動し、その結果を自己評価する過程を繰り返すことによって成り立つことについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。(後日小テスト)</p> </div> <p>※ワークシート①、②を回収する。</p> <p>【説明】(回収後に)自己実現の図り方について 自己実現は、自己の欲求や価値観に基づき具体的に目標を掲げ、他者の価値観も尊重しつつ現実を踏まえながら行動し、その結果を自己評価する過程を繰り返すことにより成り立つことを伝える。</p>

第1学年保健ワークシート「ストレスへの対処」(再掲)

1年 組 番 氏名 _____

○下の事例で、Aさんにとって、入社してからのストレスの原因になっているものには、どんなものがあると思いますか。

※文中にアンダーラインを引いてみよう。

【事例】

◎ Aさん 男子 21歳 社会人1年目 住宅メーカー勤務

将来、一戸建て住宅の設計をしたいという夢をもち、建築の専門学校で2級建築士の資格を取得したAさん。

就職活動中、第1希望の会社だけでなく希望する会社のほとんどから内定をもらうことができなかったAさんは、営業職で採用内定をもらえた住宅メーカーに就職した。それは、いつか設計部署に配属されるかも、という期待をもっていたからだ。

しかし、入社してからは、営業ノルマに振り回され、依頼主とのトラブルを抱えるなど苦勞がたえない。

自分なりに努力しているのに結果が出ないのは、営業職が自分に向いていないからと思ったAさんは、最近、上司に建築部署への配置転換を申し出たが、この会社に前例がなく、可能性はゼロであると言われてしまった。

自分の夢と現実との違いを思い知らされたAさんは、自分が現在の会社を選択したことに疑問をもつことが多くなり、イライラする毎日を過ごしている。

そんな様子を見た会社の先輩からは、「辛抱していたら営業の楽しさがわかってくるよ」と言われるが、自分にはそのように感じるできない。

親からは、会社を辞めて家業を手伝ってみないかと言われてしている。

現在の建築の仕事は捨てきれないが、正直に言えば、このままでよいのかどうか不安が日増しに大きくなっている。

最近では、専門学校時代の友人が建築士として活躍しているという噂を聞いたたびに焦るばかりで、何をどうしていいかわからず、出口の見えないAさんである。

第1学年保健ワークシート①「自己実現」

1年 組 番 氏名 _____

【問1】 Aさん自身が、自分の持っている力を最大限に発揮させるためには、「どこ」を「どうすれば」よいと思いますか。

(1) 自分の意見

【記入例】

自分の考えを柔軟にする など

(2) 班の意見

【記入例】

自分の目標をできるだけ高くもつ など

(3) 追発問について

【記入例】

昨日の自分と比べる など

【問2】 Aさん（あなた）が、生涯を通じてよりよい方向に向かうためには、「目標」、「行動」、「評価」を、それぞれどのようにすればよいと思いますか。

(1) 班の意見

【記入例】

目標：自分にあったものを 行動：無理なく 評価：客観的に など

第1学年保健ワークシート②「自己実現」

1年 組 番 氏名 _____

【まとめ】

本時を振り返って、自分の持っている力を最大限に発揮するためには、「どこ」を「どのように」していきたいかを、自分のことに置き換えて「私は、」という主語を付けて記述してください。

■十分満足できる状況

うまくいかないことの方が多いという気がするけど、私は、その都度自分自身に問いかけながら、答えが出なくても、何回もチャレンジしようと思う。(よりよい自己実現の図り方を踏まえ、自分の生活と結びつけて具体的に説明している)

■おおむね満足できる状況

私は、ゴールを設定してみても叶いそうにないときはあきらめていたが、こうやって考えてみれば、目標や取り組み方を自分で見直せばなんとかなると思った。(事例をもとに、よりよい自己実現の図り方について説明している)

第2学年

「妊娠・出産と健康」

1. 単元

生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康 (イ) 結婚生活と健康 (2時間扱い)

2. 単元の目標

- (1) 結婚生活と健康に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 結婚生活と健康に関心をもち、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 結婚生活と健康は、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて、基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 本授業について

本事例では、妊娠・出産と健康について将来出会うであろう場面を設定し、課題を解決する学習を意図したものである。結婚生活を健康に過ごすためには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援が必要である。設定された場面における課題を解決する方策を発問によって考え、出し合った意見をもとに話し合うことによって、知識を活用する学習活動を展開しようとする試みである。なお、本事例は2時間扱いとしている。

4. 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	結婚生活と健康に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	結婚生活と健康に関心をもち、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	結婚生活と健康は、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて、基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①結婚生活と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①結婚生活と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①健康な結婚生活には、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身の影響などがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における評価規準等の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足		妊娠・出産期における自らの健康管理及び社会環境づくりをもとに、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、具体例を挙げながら筋道を立ててそれらを説明している。	結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、理解したことを、具体例を挙げて説明している。
おおむね満足		妊娠・出産期における自らの健康管理及び社会環境づくりをもとに、事例と自分を比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

6. 指導と評価の計画

時	学習内容	観点別評価規準			評価方法
		ア 関心・ 意欲・ 態度	イ 思考・ 判断	ウ 知識・ 理解	
1 結婚生活と健康	(ねらい) 健康な結婚生活には、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などがあることについて理解できるようにする。				
	(妊娠・出産と健康1) 1 受精・妊娠・出産についてその仕組みを理解し、避妊法についても正しく理解する。 2 妊娠中の母体の変化と母体の健康管理について理解し、とるべき行動について考える。 3 人工妊娠中絶の心身への影響について話し合う。 4 家族計画の意義についてまとめる。	①		①	観察 ワークシート 観察 ワークシート
2 結婚生活と健康 本時	(ねらい) 結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、事例と自分を比較したり、分析するなどして、筋道を立てて説明できるようにする。				
	(妊娠・出産と健康2) 1 前時の内容を整理する。 2 夫婦での妊娠・出産期における自らの健康について、場面設定をして、話し合う。 3 妊娠・出産期の健康における自らの健康管理及び保健・医療サービスの活用が必要であることを理解し、まとめる。		①	②	付箋、ワークシート ワークシート

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

結婚生活と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。(思考・判断)

結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。(知識・理解)

(2) 学習過程 (2 / 2)

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入	1 前時の説明を受け、振り返りをする。 2 本時の内容を聞き、学習内容を理解する 1 この話し合いは、住民として、親として、妊娠・出産と健康にかかわって、妊婦さんと父親、そして周囲の人々という当事者を意識して、どんなことができるのかを出すことである。 2 保健で学んだ妊娠・出産に関する知識を使って、自分自身、自分たちをはじめ、地域の若い両親が、妊娠・出産を契機に、もっと元気になるための話し合いを深めることが求められる。	【説明】 結婚生活は、心身の発達に欠かせないことを理解した。特に心の面ではどんなことが求められるか。例えば、パートナーであるという自覚、責任、相手への思いやり、協調性などが求められる。また、生活を共にする家族は、生活行動が他の人へ与える影響も大きいと考えられた。 妊娠・出産と健康では、胎児の成長にとって母胎が環境のすべてであり、配慮しなければならないことがあった。(ここでは具体的に示さず、後で引き出したい) 本時は、地方自治体が提供している公的サービスについて考えていく(具体的な例示はしない)。これまで学習してきた内容をもとに、始めは自分で考え、次に班で話し合いながら解決策を考える。 ○ワークシートを配付する。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
展開	<p>《場面設定》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <資料1>会話中に登場する人物(妊婦)の気持ちになって、妊娠・出産期の健康についての課題を考える。 2 場面は、初めての妊娠・出産をひかえる夫婦が、保健センター主催の「両親学級」に来た。保健師さんに不安を打ち明ける。 3 会話の内容を読み、場面設定を共有する。 	<p>※ポイント</p> <p>場面設定の説明は、本時の展開を左右するため、まずは、出してほしい答えを言わないで、発言しやすい雰囲気づくりを行う。そして、場面と自分の役割がイメージできて、子どもの思考が始まる「呼び水」となり、アイデアがいろいろ出てくる働きかけをしたい。</p> <p>【説明】保健の知識を、活用し、意見を出す手がかりには、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①妊婦自身又は父親自身ができること ②夫婦が力を合わせてできそうなこと ③保健センターなどができること <p>が考えられる。</p>
	<p>【発問1】初めての出産を迎える夫婦にとって、妊娠・出産期の心身の健康での不安や心配には、どのようなことが考えられるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の考えをワークシートに記入する。 <p>【予想される生徒の反応】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①体調のこと(つわり、栄養、妊娠中毒症) ②出産の時のこと(陣痛、流産、早産、逆子) ③仕事を続けるかやめるか ④金銭的な心配 <ol style="list-style-type: none"> 2 班内で意見交換をする。自分になかった考えは、ワークシート発問1の点線の下に記入する。 	<p>【説明】①体調など、自分のことしかないようだが、ほかの人がかかわることは？私たち(出産を迎える両親)の健康のために利用できるものにはどんなものがあるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> ②「自分のこと」「お互いのこと」「周囲のこと」の視点をもって考える。 <p>【予想される生徒の反応】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①家事を協力しておこなえるかどうか ②家族や親せきとの関係 ③お互いにストレスを感じるのではないか ④良い病院があるかどうか
	<p>【発問2】夫婦の不安を和らげたり、手助けとなるものには、どんなものがありますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 付箋に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する付箋紙と模造紙を班に配付する。(付箋紙1人20枚程度) <p>【説明】最初は自分の思うこと、考えを記入する。次に、自分で書いたものをもとに、班で意見を出し合う。ここでの意見は、「役割」になりきること。記入する答えに、良い、悪い、はなく、当事者になって、思いつくものを、今もっている力で、どんどん書き出します。時間は5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を出す時の約束 <ol style="list-style-type: none"> ①他の人の意見を否定しない。 ②量を歓迎する。 ③他の人と意見交換しないこと。(思いついたものを書く) ④アイデアを組み合わせてよい。

時間	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
	<p>【発問3】出産をひかえる夫婦が、不安を和らげて出産を健康に迎えるためには、どこをどのようにしたらよいか。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>①自分で出産についてよく調べること ②男性も育児に参加できる環境 ③周囲の人の協力を得ること ④妊婦にも優しい環境 ⑤医療機関を利用すること ⑥保健センターなどの公的サービスを受けること</p> <p>1 自分の意見を記入する。 2 班で意見を交換する。仲間の意見を大切に引き取り、自分と仲間の意見をまとめる。 3 班の意見をまとめ、模造紙に書いてまとめて、発表の仕方も打ち合わせる。 4 模造紙にまとめたことについて理由を付けて発表する。</p>	<p>・班での意見交換の進め方</p> <p>①各自が書き出したものをもとに班で意見を出し合い、共有する。 ②自分の書き出したものにはない意見はワークシートに書き留める。 ③意見交換では、どんなことがあるか、自分の意見以外にはどんなことがありそうかを出し合う。 ④話し合いの中で、書き出していない意見も出して良い。思いつくアイデアを出す。 ⑤自分と違う意見は、ワークシートに書き留める。 ⑥発表の人は、それを簡潔にまとめる。</p> <p>「責任」「人間関係」「支援」「保健・医療サービス」の4つの視点で分類し、比較する。自分の考えで足りなかった観点があれば、追加するものを考える。どこにも入らないものは、「その他」とする。</p> <p>★評価【思考・判断】(記入している付箋, ワークシート) 結婚生活と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p> <p>※ポイント 4つの視点がおさえられているかどうかを確認する。理由として、当事者の立場からかどうかを確認し、関連する事項で、書ききれていない事柄を引き出したい。</p> <p>※模造紙に書かれた回答以外にも、出てきた意見があれば、黒板に書く。</p>
まとめ	<p>【まとめ】今日の話し合いを振り返って、初めての出産をひかえる夫婦が結婚生活を健康に過ごすには何が必要であると考えますか？その理由を含めて、自分の言葉で説明しなさい。</p> <p>1 ワークシートのまとめに記入する</p>	<p>記入後に回収し、まとめを解説する。</p> <p>★評価【知識・理解】ワークシート 結婚生活の妊娠・出産期を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>

「妊娠・出産と健康」ワークシート

<資料1>

次の文は、初めての妊娠・出産を迎える夫婦が保健センターの「両親学級」に来たときに、保健師さんと交わした会話です。下線部 A, B のように、妊娠・出産期の心身の健康にかかわって、直面するかも知れない問題や不安があることがあります。

保健師：こんにちは、体調はどうですか？

妊婦：体調は良いです。でも、出産までの期間を考えるとこれから A 不安なこともいっぱいあります。

保健師：そうですね。初めての赤ちゃんですもんね。お父さんはどうですか？

父親：私も、自分の体のことではないんですけど、わが子の顔を見るまではやはり B 心配でいっぱいですね。

保健師：私も相談にのります。夫婦学級や保健センターを活用してください。

【発問1】初めての出産を迎える夫婦にとって、妊娠・出産期の心身の健康での不安や心配には、どのようなことが考えられるか。

A (妊婦) の不安

- ・体調のこと（つわり、栄養、妊娠中毒症）
- ・出産の時のこと（陣痛、流産、早産、逆子）

B (父親) の心配

- ・家事を協力しておこなえるかどうか
- ・家族や親せきとの関係

(仲間の意見)

- ・体調のこと（つわり、栄養、妊娠中毒症）
- ・出産の時のこと（陣痛、流産、早産、逆子）
- ・仕事を続けるかやめるか
- ・金銭的な心配

- ・家事を協力しておこなえるかどうか
- ・家族や親せきとの関係
- ・お互いにストレスを感じるのではないか
- ・良い病院があるかどうか

【発問2】夫婦の不安を和らげたり、手助けとなるものには、どんなものがありますか。

(付箋紙を利用してできるだけ多く書き出してみよう。)

- ・周りの人の助け
- ・保健センターの指導
- ・妊婦の母親等のアドバイス
- ・妊婦の友達のアドバイス
- ・医師のアドバイス

【発問3】 出産をひかえる夫婦が、不安を和らげて出産を健康に迎えるためには、どこをどのようにしたらよいか。

	自分たちでできること
提供されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で出産についてよく調べること ・ 男性も育児に参加できる環境 ・ 周囲の人の協力を得ること ・ 妊婦にも優しい環境
利用・活用するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関を利用すること ・ 保健センターなどの公的サービスを受けること

【まとめ】

今日の話し合いを振り返って、初めての出産をひかえる夫婦が結婚生活を健康に過ごすには何が必要であると考えますか？その理由を含めて、自分の言葉で説明しなさい。

◆十分満足できる状況◆（思考・判断）

- ・ 出産と健康は、妻と夫のどちらか一方ではうまくいかないことを考えさせられた。特に、出産となると妊婦は自分のことだけど、夫は自分のことになりにくいのかなと思った。夫の協力が第一で、家族や周囲の人の支えが必要である。
- ・ 出産は、夫婦だけではなく、夫婦の両親の協力や地域との関わりが大切であると感じた。出産に関係して地域で必要になるものがある。
- ・ 今まで知らなかったけど、市ではいろいろなサポートが準備されていると思った。保健センターの「両親学級」などは全く知らなかった。これらは必要なことなので、もしも出産ということになったら、積極的に夫婦で参加してみたい。

◆おおむね満足できる状況◆

Aさん

- ・ 妊婦だけでなく、父親も協力することが大切である。
- ・ 家族や周囲の人の支えが必要である。
- ・ 医療機関や保健センターを活用する。
- ・ 保健センターの「両親学級」などに積極的に夫婦で参加する。
- ・ 個人だけでは解決できないことを、社会でおぎなってくれていることがわかった。
- ・ 出産は、夫婦だけではなく、夫婦の両親の協力や地域との関わりが大切であると感じた。

第2学年

「医療制度と医療費」

1. 単元

生涯を通じる健康 イ 保健医療制度及び地域の保健・医療機関（3時間扱い）

2. 単元目標

- (1) 我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について関心をもち、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。（関心・意欲・態度）
- (2) 我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について、健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関は、適切に活用することが重要であることについて、理解できるようにする。
(知識・理解)

3. 本授業について

本事例においては、我が国の保健・医療制度について理解するとともに、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりする学習を意図したものである。課題を見付ける展開では、発問を用いてグループでの話し合いを行った。なお、医療保険制度（国民皆保険）の説明は、制度の理解を促すのではなく、自分たちの健康という面から取り上げることが大切である。

4. 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について関心をもち、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について、健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関は、適切に活用することが重要であることについて、基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、関連する資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。	①我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度及び地域の保健・医療機関が存在していること、行政及びその他の機関などから保健に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における評価規準等の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足		我が国の医療制度について、資料を基に、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらの理由を付けて説明している。	我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを、具体例を挙げて発言したり、記述したりしている。
おおむね満足		我が国の医療制度について、資料を基に、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらを説明している。	我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

6. 指導と評価の計画

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解	
1 我が国の保健制度	(ねらい) 我が国には人々の健康を守るため、保健行政の組織及び役割があり、各種の保健サービスが提供されていることを理解することができるようにする。				
	(学習活動) 1 我が国の保健行政及びその役割について理解する。 2 我が国における各種の保健サービスについて理解するとともに具体的な取組みについて、発言したり記述する。		①	①	ワークシート ワークシート
2 我が国の医療制度 本時	(ねらい) 我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。				
	(学習活動) 1 我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて理解する。 2 我が国の医療制度について、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらをまとめる。		①	①	ワークシート ワークシート
3 地域の医療機関と医療サービスの活用	(ねらい) 地域の医療機関で行われている医療サービスの適切な活用には、説明と同意を適切に受けること、専門的な知識をもった第三者の意見を求めることなどがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。				
	(学習活動) 1 地域の医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンに関して話し合う。 2 地域の医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントの考え方に基き医師との関わり方、分析したりするなどしてまとめる。 3 医療機関で行われている医療サービスの適切な活用には、説明と同意を適切に受けること、専門的な知識をもった第三者の意見を求めることなどがあることについて、理解したことを記述する。	①	②		観察 ワークシート ワークシート (別途小テスト)

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

我が国の医療制度について、資料を基に、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらを説明することができるようにする。 (思考・判断)

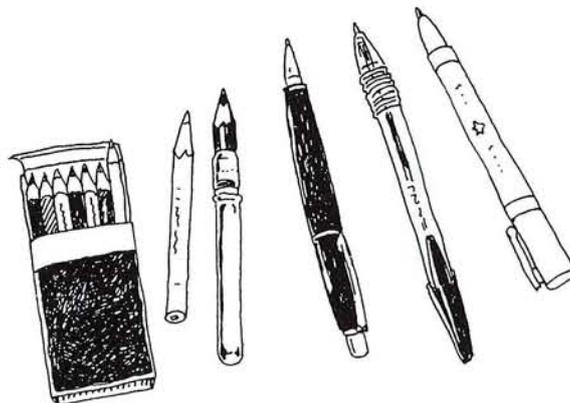
我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。 (知識・理解)

(2) 学習過程 (本時 1 / 2)

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入 3分	1 本時の内容を聞く。 ○机、椅子を移動し、グループを作る。 2 保険証には、職種によって種類があることを理解する。	【説明】今日は、我が国の医療の制度やしきみについて学習をすることを伝える。 【説明】保険の種類について説明する。 <指示> ワークシート、資料を配付する。
展開 37分	(問1) 病院で診察が終わり会計窓口で、かかった医療費を支払う際に、保険証を提示すると自己負担の額が一部の支払いですむのはなぜだろう。項目例の適切と思うものに○を付けてください。	
	1 自分の考えをワークシートの(問1)解答例を○で囲む。 2 3～4各程度の生徒を指名して意見を聞く。 《解答例》 ア 保険に加入している証明だから。 イ 税金で負担してもらえらるから。 ウ 国から補助金が出るから。 エ 法律で決まっているから。 オ 子ども手当のような医療費の手当が出ているから。 カ 身分証明になるから。 キ 消費税を払っているから。 国民皆保険制度の説明 3 領収書の説明を聞く ・医療保険の計算は、「1点」が10円であることを知る。 ・この例の場合、窓口で支払った金額は、「17,650円」であるが、医療費総額はいくらだったのかを考える。 →3割負担だと「保険区分計」の「582点(5,820円)」が医療費の総額 4 我が国の医療制度の中の、医療保険のしくみ、医療費の保障を理解する。	【説明】参考資料の図2の「医療保険の種類」を説明する 【説明】ワークシートに考えを書かせ、3～4名程度の生徒を指名し、発言させる。 この問の方向性は、「我が国の医療制度」についてイメージを持たせ、授業後半の「医療費の保障」「保障は国民の掛け金と税金であること」につなぐ問である。 <指示> 始めに、自分の考えをワークシートの(問1)解答に○を付けさせる。 ※注意点 生徒が選択した項目例を聞き取り、我が国の医療保険の説明につなげるきっかけづくりとする。 【説明】参考資料の図3を見ながら医療保険の点数について説明する。 <指示> フラッシュカードを黒板に貼付し、ワークシート①の欄に記入させる。 【説明】我が国の「医療保険のしくみ」「医療費の保障」について説明する。 【説明】解説(フラッシュカードを用いておこなう。) 【説明】窓口負担は全体の医療費の3割(平成25年度時点)。残りの7割は、税金と保険料を合わせた医療保険から医療機関に医療費として支払われている。 【説明】図3の領収証の「請求金額」は全体の医療費の3割。1点は10円で計算される。 【説明】窓口で支払が3割に抑えられているのは、医療保険のしくみがあるから。残りの金額は、自分が支払った保険料と税金。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
展開 37分	<p style="text-align: center;">フラッシュカード見取り図</p>	<p>【説明】この制度を「国民皆保険制度」という。1961年（昭和36年）から国民皆保険を実現し、世界でも類をみない。すべての国民が医療保険に加入し、医療費の保障があり、誰もが医療を少ない自己負担で受けられている。</p> <p>※注意点 医療保険は相互扶助の考え方で、加入の掛け金（保険料）と税金で財源をつくらせている。国民全体で支えているしくみである。</p> <p>【説明】後期高齢者制度についても補足を加える。</p>
	<p>【発問1】</p> <p>①病気やけがのとき医療費の支払いが安くなる医療保険だが、どんな問題があるだろう。</p> <p>②①を踏まえて保健医療サービスの今後は、どのようにしていったらよいだろう。</p> <p>5 【発問1】について、ワークシート自分の考え欄に意見を書き込む、その意見を基にグループ内で話し合い、考えをまとめる。グループの考えをワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【①の予想される生徒の反応】</p> <p>ア 高齢者が増えて医療費がかかる。</p> <p>イ 若者（納税者）の負担が増える。</p> <p>ウ 国から補助金を増やす。</p> <p>エ 負担割合が3割よりも増えて、窓口での負担が増える。</p> <p>オ 掛け金が値上がりする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【②の予想される生徒の反応】</p> <p>カ 医療費のかからない医療の開発。</p> <p>キ 漬けを減らす。</p> <p>ク 入院でなく、通院できる医療の開発。</p> <p>ケ 国民の健康意識を高める。</p> <p>コ みんなでスポーツをして病院にかかりにくくする。</p> <p>サ 自宅で医療が受けられる（在宅医療）を充実させて入院を減らす。</p> </div>	<p>〈指示〉自分の考えをワークシート【発問1】①自分考えに書き込ませる。</p> <p>※注意点 机間支援</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>次の展開（発表）のための情報収集・方針を決める。</p> </div> <p>〈指示〉グループの意見を発表させる。</p> <p>※注意点 前の班とは違う考え、意見を発表する。発表が正解かどうかは問題ではないことを確認する。うまく答えられない生徒に対しては支援をする。</p> <p>※注意点 発表者の意見を簡潔に板書する。</p> <p>※注意点 発表を終えた班に対してのコメントを適宜加える。</p> <p>〈指示〉板書を残して次に進む。（詳しい説明・解説は授業後半で行う）。</p> <p>【説明】②の説明</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>国民の健康を守るため国民皆保険制度の充実が必要であるとともに、これからの本制度の改善も重要と考えられる。医療サービスを受けなくてすむ考え方も重要である。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★評価【思考・判断】</p> <p>我が国の医療制度について、資料を基に、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらを説明している。</p> </div>

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
まとめ 5分	<p>【まとめ】医療費が保障されている医療サービスについて理解したことを書きなさい。</p> <p>1 今日の授業のまとめをワークシートに書き出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>ア 保険証をもっていると病院にかかったときに安くかかることができることは知っていたが、どこからお金が出ているかは知らなかった。これからは私たちの負担が増えそうなので、私の家族や子供たちが健康であるために、安心してかかることのできる制度であってほしいと思った。</p> <p>イ 窓口負担が増えてきているのは仕方ないと思うけど、どこまで負担が増えてしまうのだろう。</p> <p>ウ 全ての国民が医療費の保障がされる国民皆保険制度はありがたいと感じた。私たちの健康のためにはとても大事な制度だと思った。</p> <p>エ 税収を今まで以上に上げなければいけないのではと感じた。増税をするにしても、国民の健康のために使ってほしいと思った。</p> </div> <p>2 机、椅子を移動し、元の座席配列に移動する。</p>	<p>〈指示〉今日の授業のまとめをワークシート②に記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★評価【知識・理解】</p> <p>我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; border-radius: 10px;"> <p>◆説明 医療費に係る増税課題は、公民科等で考える課題でもある。保健学習は、「健康」の切り口を十分におさえて説明する。</p> </div>



「我が国の保健・医療制度」ワークシート

2年 組 番 氏名 _____

【問1】

病院診察が終わり会計窓口で費用を支払う際に、保険証を提示すると自己負担額が一部の支払いですむのはなぜだろう。項目例の適切と思うものに○を付けてください。

【項目例】

- ア 保険に加入している証明だから。
- イ 税金で負担してもらえから。
- ウ 国から補助金が出るから。
- エ 法律で決まっているから。
- オ 子ども手当のような医療費の手当が出ているから。
- カ 身分証明になるから。
- キ 消費税を払っているから。

【発問1】

①病气やけがのとき、医療費の支払いが安くなる医療保険だが、どんな問題があるだろう。

■十分満足できる記述例（思考・判断）

少子高齢化は、病气にかかりやすい高齢者が多く、医療費全体が高額になる。そのため、医療保険は私たち国民の費用負担が増える。

【本時の資料を基に、我が国の医療制度の問題を少子高齢化の視点から見付けている。】

おおむね満足できる記述例（思考・判断）

- ・高齢者が増えて医療費がかかる。
- ・若者（納税者の負担が増える）。
- ・国から補助金を増やす。
- ・負担割合が3割よりも増えて、窓口での負担が増える。
- ・掛け金が値上がりする。

○評価のポイント

【本時の資料を基に、我が国の医療制度の問題を見付けている。】

②①を踏まえて保健医療サービスの今後は、どのようにしていったらよいだろう。

十分満足できる記述（思考・判断）

我が国の保健医療サービスを保っていくには、医療費がかからない医療を目指すことではないか。例えば、入院を減らすような医療、自宅でも医療が受けられる仕組みを考えるなど。みんなが健康になって、病院にかかりにくくすることも必要だと思う。

○評価のポイント

【①の回答を基に、今後の我が国の医療制度の課題の解決のための方法を選び、改善策を表している。】

おおむね満足できる記述（思考・判断）

- ・医療費のかからない医療の開発。
- ・薬漬けを減らす。
- ・入院でなく、通院できる医療の開発。
- ・国民の健康意識を高める。
- ・みんなでスポーツをして病院にかかりにくくする。
- ・自宅で医療が受けられる（在宅医療）を充実させて入院を減らす。

○評価のポイント

【①の回答を基に、今後の我が国の医療制度の課題の解決の方法を見付けている。】

【まとめ】

(1) 医療費が保障されている医療サービスについて理解したことを書きなさい。

十分満足できる記述（知識・理解）

保険証をもっていると病院にかかったときに安くかかることができることは知っていたが、私たちの税金や保険の掛け金であることを知った。これからの私たちの負担がどのくらい増えるか分からないけれど、医療費の保障が国民全体で受けられるように掛け金や負担を工夫して制度がよりよくなってほしいと思った。

○評価のポイント

【国民皆保険制度について理解されているとともに、具体例を挙げて表している。】

おおむね満足できる記述（知識・理解）

保険証をもっていると病院にかかったときに安くかかることができることは知っていたが、どこからお金が出ているかは知らなかった。これからは私たちの負担が増えそうなので、私の家族や子供たちが健康であるために、安心してかかることのできる制度であってほしいと思った。

○評価のポイント

【我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。】

参考資料

図1 保険証の種類（見本）

A

健康保険 本人（被保険者） 00123
被保険者証 平成〇〇年〇月〇日交付
記号 〇〇〇〇〇〇 番号〇〇〇〇

氏名 〇〇 〇〇
生年月日 昭和〇〇年〇月〇日 性別 男
資格取得年月日 平成〇〇年〇月〇日

事業所所在地 〇〇市〇〇町〇-〇
事業所名称 〇〇 株式会社

保険者番号 〇〇〇〇〇〇〇〇
保険者名称 全国健康保険協会 〇〇支部
保険者所在地 〇〇市〇〇区〇〇町〇-〇-〇 印

B

国民健康保険 有効期限 平成〇〇年 〇月 〇日
被保険者証
記号一 番号〇〇〇〇〇〇〇〇

氏名 〇〇 〇〇
生年月日 昭和〇〇年〇月〇日生 性別 女

世帯主氏名 〇〇 〇〇
住所 〇〇市〇〇町〇-〇

保険者番号

資格取得日 平成〇〇年〇月〇日 〇〇〇〇〇
交付年月日 平成〇〇年〇月〇日 保険者名 〇〇市 印

C

公立学校共済組合 本人 平成〇〇年〇月〇日交付
組合員証 記号 公立〇〇 番号〇〇〇〇〇〇

氏名 〇〇 〇〇

生年月日 平成〇〇年〇月〇日 性別 男
資格取得年月日 平成〇〇年〇月〇日

発行機関所在地 〇〇市〇〇区〇〇-〇-〇
〇〇県教育委員会事務局管理部門内
保険者番号・名称 〇〇〇〇 公立学校共済組合〇〇支部
保険者電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

図2 医療保険の種類

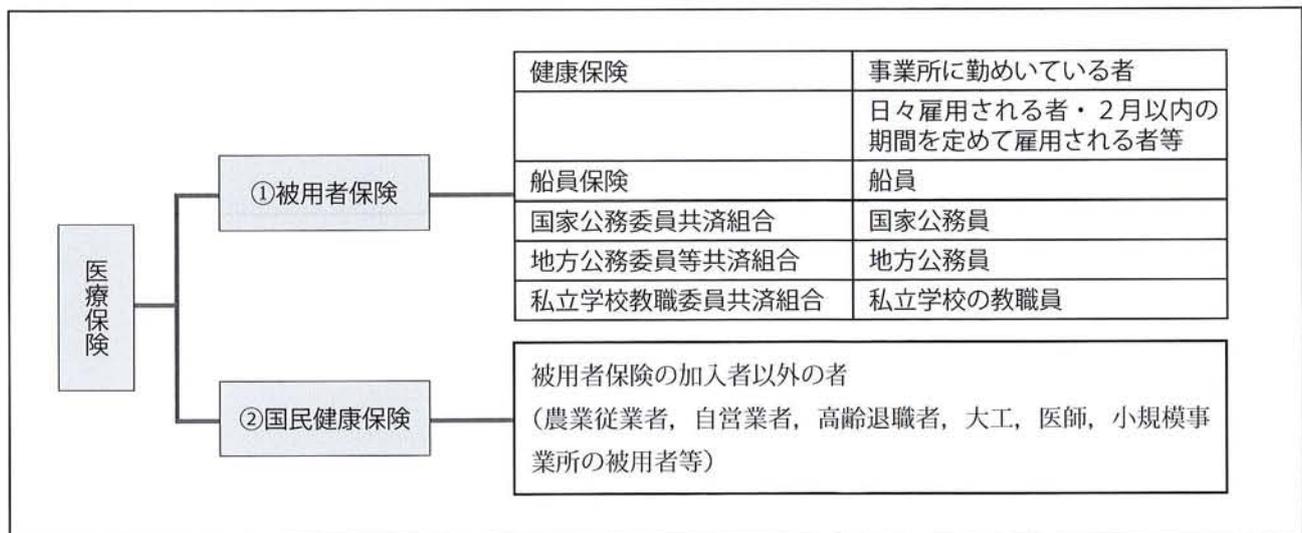


図3 医療保険の種類

領 収 書 (授業教材用)								平成〇〇年〇〇月〇〇日
患 者 No. 〇〇〇〇				氏 名 〇〇 〇〇 様				
保険者 No. 〇〇〇〇〇〇〇〇								
保 険	初審・再診料	医学管理等	在宅医療	投 薬	注 射	処 置	手 術	
	270 点	10 点	0 点	205 点	97 点	0 点	0 点	
	麻 酔	検 査	画像審査	リハビリテーション	精神科専門療法	放射線治療	病理診断	
	0 点	0 点	0 点	0 点	0 点	0 点	0 点	
	保険区分計	負担割合	負担金額		前回未収金	助成(優待)金		
582 点	割	1,750 円		0 円	0 円			
保 険	健康診断	予防接種	文書科	容器代	診察券	自費検査	手 術	
	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	(印)	
	保険外	その他	インフルエンザ接種	保険外合計金額				
	0 円	0 円	0 円	0 円				
請 求 金 額		今回未収金	領 収 金 額					
1,750 円		0 円	1,750 円					
※再発行はいたしませんので大切に保管してください。								
〇〇県〇〇市〇〇町〇〇-〇 〇〇〇〇医院 〇〇 〇〇 TEL 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇								

資料 1

『24年度 医療費 38.4兆億円 10年連続、過去最高更新』

厚生労働省は10日、平成24年度に病気やけがの治療で全国の医療機関に支払われた医療費が前年度比で約6千億円(1.7%)増加し、約38兆4千億円(速報値)になったと発表した。1人当たりの医療費も1.9%増加して30万1千円となり30万円台を初めて記録。いずれも10年連続で増え、過去最高を更新した。

「2013.9.28 産経ニュース 一部抜粋」

第2学年

「医療機関と医療サービス」

1. 単元

生涯を通じる健康 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (3時間扱い)

2. 単元目標

- (1) 我が国の保健・医療制度及び地域の保健医療機関の活用について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) 我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について、学習したことを個人の及び社会生活と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明できるようにする。(思考・判断)
- (3) 生涯を通じて健康の保持増進をするには、我が国の保健・医療制度の活用や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることについて、理解できるようにする。(知識・理解)

3. 本授業について

本事例においては、地域の保健・医療機関について理解するとともに課題を見付けたり、解決の方法を選んだりする学習を意図したものである。課題を見付ける展開では、発問を用いてグループでの話し合いを行った。これによって、生徒が主体的に授業に取り組み、出された意見をもとに思考を働かせる展開となることを目指した授業である。

4. 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	我が国の保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用について、健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	我が国の保健・医療制度及び地域の保健医療機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①我が国の保健・医療制度及び地域の保健機関の適切な活用について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①我が国の保健・医療制度及び地域の保健機関の適切な活用について、資料で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 ②我が国の保健医療制度及び地域の医療機関の適切な活用について、学習したことを個人の及び社会生活と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①生涯を通じて健康を保持増進するには、我が国の保健・医療制度地域の保健機関を適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②生涯を通じて健康の保持増進をするには、我が国の保健・医療制度及び地域の医療機関などを適切に活用することが重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

5. 本時における評価規準等の評価

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
十分満足	・医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの話し合いや意見交換などの学習活動に積極的に参加して取り組もうとしている。	・医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンをもとに、患者と医師の立場から比較したり、分析したりするなどして、具体例を挙げながら筋道を立ててそれらを説明している。	
おおむね満足	・医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとしている。	・医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンをもとに、患者と医師の立場から比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	

6. 指導と評価の計画

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		ア 関心・ 意欲・ 態度	イ 思考・ 判断	ウ 知識・ 理解	
1 我が国の保健制度	(ねらい) 我が国には人々の健康を守るため、保健行政の組織及び役割があり、各種の保健サービスが提供されていることを理解する。				
	1 我が国の保健行政及びその役割について理解する。 2 我が国における各種の保健サービスについて理解するとともに具体的な取組みについて、発言したり記述する。		①	①	ワークシート ワークシート
2 我が国の医療制度	(ねらい) 我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができる。				
	1 我が国の医療制度には、医療費が保障されている医療サービスがあることについて理解する。 2 我が国の医療制度について、課題を見付けたり、解決の方法を選んだりするなどして、それらをまとめる。		②	②	ワークシート ワークシート
3 地域の医療機関と医療サービスの活用 本時	(ねらい) 地域の医療機関で行われている医療サービスの適切な活用には、説明と同意を適切に受けること、専門的な知識をもった第三者の意見を求めることなどがあることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。				
	(学習活動) 1 地域の医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンに関して話し合う。 2 地域の医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントの考え方に基つき医師との関わり方、分析したりするなどしてまとめる。 3 医療機関で行われている医療サービスの適切な活用には、説明と同意を適切に受けること、専門的な知識をもった第三者の意見を求めることなどがあることについて、理解したことを記述する。	①	②		観察 ワークシート ワークシート (別途小テスト)

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

地域の医療機関の適切な活用について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)

地域の医療機関の適切な活用について、学習したことを個人の及び社会生活と比較したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。 (思考・判断)

(2) 学習過程 (本時 1 / 2)

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	<p>1 本時の内容を聞く。</p> <p>○机を移動しグループを作る。</p> <p>【場面1】 Aさん 10代女性 Aさんは近頃、からだのだるさがとれません。微熱が出ては下がるといった症状が続いています。</p>	<p>【説明】本時は、我が国の保健・医療機関の活用について学習することを伝える。</p> <p>※注意点 ワークシートを配付する。</p> <p>【説明】ある10代女性がからだに不調を抱えている場面から、医療機関の活用のしかたを考えさせる。</p> <p>【説明】場面1を読み、状況を共有する。</p>
展開 33分	<p><問1> 場面1のような時、Aさんは、どのような医療機関を受診しようと考えますか。</p> <p>1 自分の考えをワークシートの<問1>解答例を○で囲む。</p> <p>2 3～4名程度の生徒が発言する。</p> <p>【予想される生徒の反応】 ア 内科 イ 近くの医院 ウ 診療時間内に行ける所 エ よく知っている所 オ 評判の良い所 カ 大きな病院 (総合病院等) キ 建物が新しい</p> <p>3 説明を聞きながら、個人用ワークシートに記入する。</p> <p>【場面2】 よく知っているところ (かかりつけ医) に行ったところ、地域の拠点病院で精密検査を受けるように言われ、紹介を受けました。拠点病院では、診察と様々な検査、検査結果の説明などを受けました。新しい担当の医師は、丁寧に説明もしてくれます。しかし、次から次へとおこなわれる検査や説明に不安が募ります。</p>	<p><指示> どんな答えでも気兼ねなく答えるよう働きかける。</p> <p><指示> 3～4名程度の生徒を指名し、発言させる。</p> <p>この問の方向性は「我が国の医療機関」についてイメージさせ、授業の後半に「保健・医療サービス」につなぐ問である</p> <p>※注意点 机間支援</p> <p>この問の方向性は「我が国の医療機関」についてイメージさせ、授業の後半に「保健・医療サービス」につなぐ問である。机間指導中は、子どもの思考が働き始めたら、記述している内容を把握し、次の展開のための情報を収集しておく。</p> <p>【説明】かかりつけ医について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭医ともいう。 ・日常みられる病気などの診察をし、必要に応じて他の適切な病院への紹介をおこなう。 ・地域における個人や家庭の健康相談・健康管理の役割を担う。 ・日頃からよく利用している、顔見知りの、近くの医院。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
展開 33分	<p><発問1> ①不安が募っている患者Aさんは、診察を受けるときに医師とどのようなやりとりをしたでしょうか。また、②紹介されてかかっている拠点病院の他に、有益な情報を得るためにAさんができることは何でしょうか。</p> <p>4 グループ毎に意見を出し合う。 5 指名された班は、意見を発表する。</p> <div data-bbox="213 488 743 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師にいろいろと質問をする。 ・ 「不安」がある気持ちを伝える。 ・ 自分の状態(自覚症状)をはっきりと伝える。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる医師を探す。 ・ インターネットなどで調べる。 ・ 自分で調べたことは確かかどうか分からないので、専門家(医師)に相談する。 ・ かかっている病院への不信感ではなく、納得するために他の病院を紹介してもらう。 ・ 自分で探した病院に紹介状を書いてもらい、検査データと撮影した映像等を提供してもらう。 </div>	<p>※注意点 各班の意見が複数出てきたところで、意見交換を止め、発表させる。発表を終えたら、インフォームド・コンセントとセカンド・オピニオンの視点で生徒の答えと関連付けて説明する。</p> <p>【説明】【インフォームド・コンセントについて】 医療関係者の側からも、患者に対して必要な情報を伝え、患者が同意(納得)した上で治療を受けること。日本語では「説明と同意」と訳される。医療の側から見ると「患者に説明し同意を得る」、患者の側から見ると「医師から説明を受け同意を与える」。</p> <p>【説明】【セカンド・オピニオンについて】 医師の診断に納得ができなかったり、確かめたりしたいことがある場合に、安心して治療を受けたり、誤診を防ぐために別の医療機関で専門家の意見を求めること。初めに受診した医療機関から「紹介状(診療情報提供書)、検査データ、撮影した画像等」を提供してもらうことができる。</p> <div data-bbox="772 1061 1426 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【関心・意欲・態度】 医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンに関する話し合いや意見交換などの学習活動に参加して取り組もうとしている。 (観察)</p> </div>
	<p><発問2> 医療を受ける私たち(患者)は、どんな気持ちや考えを準備して受けたらよいでしょうか。</p> <p>6 グループ毎に意見を出し合う。 7 模造紙(1/4)紙にグループの意見をまとめて書き出す。 8 黒板にマグネットで貼り付けて、それを説明しながら発表する。</p> <div data-bbox="213 1550 743 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の健康状態(症状)をしっかり把握すること。 ・ 医師に自分の健康状態(症状)を適切に伝えること。 ・ わからないことは質問すること ・ 医師から説明された治療方法に同意を与え、自分で選択するという意識をもつこと。 ・ 治療方法を決定するために、第三者も含めて必要な情報を得ること。 ・ 医療は、私の病気を治すことの手助けをしてくれる存在と考えること。 </div> <p>9 机を移動し、元の座席配列に移動する。</p>	<p>※注意点 机間支援</p> <div data-bbox="772 1442 1426 1630" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークシートに記載できない生徒に対しては、個別に対応する。机間支援中は、子どもの思考が働き始めたら、記述している内容を把握し、次の展開のための情報を収集しておく。</p> </div> <p><指示> 発問2の内容をグループ毎に発表させる。</p> <p>【説明】自己の健康課題を的確に把握し、医療機関及び保健・医療サービスを適切に活用していくことが求められることを説明する。</p> <p>※注意点 机の配置を元に戻させる。</p>

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
まとめ 7分	<p>今日の授業のまとめを書き出しましょう。</p> <p>本時を振り返って、医療機関及び保健・医療サービスをどんな考えで受けたらよいか、自分のことに置き換えた説明をワークシートに書いてください。</p>	
	<p>1 本時のまとめを個人用ワークシートに書き出す。</p> <div data-bbox="229 495 758 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療にかかるときは、自分の状態（症状）を的確に、はっきりと伝えることが、適切な医療を受けられることになると思った。その上で、治療の方針に同意するのは自分自身だと思った。 今までは、医師からの説明でわからないことがあっても言われたままにしていればよいと思っていたけれど、不安なときは質問をして不安を少しでも軽くすることが大切だと思った。 治療方法を決定するために、第三者も含めて、他の医療機関にかかって必要な情報を得て判断することは、医療サービスの活用になると思った。 </div>	<p>〈指示〉本時の授業まとめをワークシートに記入させる。</p> <div data-bbox="785 450 1433 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★評価【思考・判断】</p> <p>医療機関の適切な活用について、インフォームド・コンセントの考え方に基き医師との関わり方、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (ワークシート)</p> </div> <div data-bbox="837 674 1385 1081" style="text-align: center;">  </div> <p>○ワークシートを回収する。</p>

「地域の保健・医療機関の活用」ワークシート

2年 組 番 氏名 _____

場面1

Aさん 10代女性 Aさんは近頃、からだのだるさがとれません。微熱が出ては下がるといった症状が続いています。

【問1】(個人)

Aさんはどのような医療機関を受診しようと考えていますか。適切と思うものに○を付けてください。

【項目例】

《項目例》

ア 内科 イ 近くの医院 ウ 診療時間内に行ける所
エ よく知っている所 オ 評判の良い所
カ 大きな病院（総合病院等） キ 建物が新しい

場面2

よく知っているところ（かかりつけ医）に行ったところ、地域の拠点病院で精密検査を受けるように言われ、紹介を受けました。拠点病院では、診察と様々な検査、検査結果の説明などを受けました。新しい担当の医師は、丁寧に説明もしてくれます。しかし、次から次へとおこなわれる検査や説明に不安が募ります。

【発問1】①不安が募っている患者Aさんは、診察を受けるときに医師とどのようなやりとりをしたでしょうか。

- ・医師にいろいろと質問をする。
- ・「不安」がある気持ちを伝える。
- ・自分の状態（自覚症状）をはっきりと伝える。

【発問 1】②紹介されてかかっている拠点病院の他に、有益な情報を得るために A さんができることは何でしょうか。

- ・他にかかりたい病院を探す。
- ・インターネットなどで調べる。
- ・自分で調べたことは確実かどうか分からないので、専門家（医師）に相談する。
- ・かかっている病院への不信感ではなく、自分が納得するために他の病院を紹介してもらおう。
- ・自分で探した病院に紹介状を書いてもらい、検査データと撮影した映像等を提供してもらおう。

【発問 2】私たち（患者）は、どんな考えで医療を受けたらよいでしょうか。

十分満足できる様相（思考・判断）

以前は医師の説明を一方向的に言われるまま治療方法について同意をしていたが、自分の状態をはっきりと伝えて、医師からの説明に同意を与え治療方法を自分が選択することが大切だと思った。医師からの説明でわからないことがあった時は、質問をして不安を少しでも軽くする。

○評価のポイント

【医師との関わり方について、以前の自分の考えと比べたり、本時に学んだことを踏まえたりながら、インフォームドコンセントやセカンド・オピニオンの考え方を説明している。】

おおむね満足できる様相（思考・判断）

自分の状態をはっきりと伝えて、医師からの説明に同意を与え治療方法を自分が選択する。医師からの説明でわからないことがあった時は、質問をして不安を少しでも軽くする。

○評価のポイント

【医師の説明をよく聞いて、それに同意するというインフォームドコンセントや場合によっては他の専門家の意見も参考にするというセカンド・オピニオンの考え方記述されている。】

【本時のまとめ】本時を振り返って、医療機関及び保健・医療サービスをどんな考えで受けたらよいか。自分のことに置き換えた説明をワークシートに書いてください。

【予想される生徒の反応】

- ・医療にかかるときは、自分の状態（症状）を的確に、はっきりと伝えることが、適切な医療を受けられることになると思った。その上で、治療の方針に同意するのは自分自身だと思った。
- ・今までは、医師からの説明でわからないことがあっても言われたままにしていればよいと思っていたけれど、不安なときは質問をして不安を少しでも軽くすることが大切だと思った。また、場合によっては異なる専門家に意見を求めることも必要だと思った。

本書は、文部科学省補助金（健康教育振興事業費補助金）により、下記の公益財団法人 日本学校保健会に設置した「保健学習推進委員会」で作成したものである。

「保健学習推進委員会名簿（平成24～26年度）」

◎印 委員長／○印 副委員長（五十音順）

◎ 野津 有司 筑波大学体育系 教授

【小学校部会】

○ 植田 誠治 聖心女子大学文学部 教授
小泉 昌和 川崎市立菅生小学校 教諭
関口 健一 宇都宮大学教育学部附属小学校 教諭
横内 理香 山梨県教育庁スポーツ健康課 指導主事

【中学校部会】

萩原 芳彦 米沢市立第七中学校 教諭
木下 臣仁 鳴門教育大学附属中学校 教諭
田村 新一 大館市立東中学校 教諭
○ 渡邊 正樹 東京学芸大学教育学部 教授

【高等学校部会】

○ 今関 豊一 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 部長
大見 学 愛知県立碧南高等学校 教頭
久保 史裕 千葉県教育庁教育振興部体育課学校体育班 指導主事
南 雄志 滋賀県立膳所高等学校 教諭

【授業実践協力者】

長谷川智一 愛知県立刈谷北高等学校 教諭
吉原 礼 愛知県立碧南高等学校 教諭
田中 悠也 愛知県立碧南高等学校 教諭

なお、本書の作成に当たり、

森 良一 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官
に多大な援助とご助言をいただきました。

高等学校保健学習の指導と評価の工夫
—思考力の育成を目指した実践例—

平成 27 年 2 月 19 日 発行

発行者

公益財団法人 日本学校保健会
〒 105-0001 東京都港区虎ノ門 2-3-17
虎ノ門 2 丁目タワー 6 階
TEL 03-3501-0968

印刷

三永印刷（株）

